



ICT研究授業アイデアブック

NEXT GIGA時代の新しい授業づくり



Point

- 1 全国の先進的な先生が考案した **34の授業事例** を掲載！
- 2 ワークシートも **無料でダウンロード** 可能！
- 3 ICTを活用した研究授業のヒントが満載！



ICT研究授業アイデアブック

NEXT GIGA時代の新しい授業づくり

02 この本について

03 ロイロ認定自治体・ロイロ認定校のご紹介

04 授業事例 **小学校**

国語・算数・生活・理科・社会・英語・保健・特別活動

18 インタビュー

ロイロ認定自治体

21 授業事例 **中学校**

国語・数学・理科・社会・英語

31 授業事例 **高等学校**

国語・数学・理科・地理歴史・英語・情報・総合・保健

41 インタビュー

ロイロ認定校

45 全国の先生が作った授業案を使ってみよう！

46 ロイロ認定ティーチャーになろう！

47 初年度無料キャンペーン

この本について

全国のロイロ認定自治体・ロイロ認定校の授業事例を掲載しています。

ICTを活用した研究授業のヒントになる授業事例集です。

授業事例で使用しているワークシートは、ダウンロードしてご利用いただけます。

🔍 授業事例の見方

小学校 1年
国語

単元
ものの名まえ

指導要領
〔知識及び技能〕(1) ア、オ
〔思考力、判断力、表現力等〕
A (1) オ

授業者
四国中央市立妻鳥小学校
片山 真美 先生

ものの名まえ

生徒が思考する活動をピークに配置

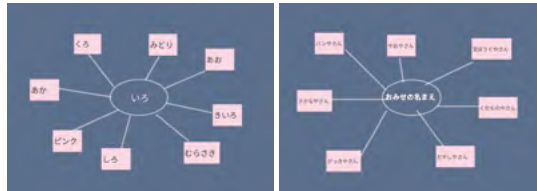
左から右が時間軸

授業の概要図
授業の流れ・生徒の活動がわかります。

授業展開の説明

展開1 学習課題を確認する

教員が教科書を範読し、ものの名前には、上位語と下位語があることを説明する。シンキングツールのウェビングを使い、理解を深めさせる。展開3でお店屋さんごっこを実施する際に、どのようなお店があったら楽しいかを考えさせる。



展開2 上位語・下位語进行分类する

ものの名前には「まとめた名まえ (上位語)」「一つひとつの名まえ (下位語)」があることを理解させるため、表を使って分類させる。さらに、教員が配布した複数のカード (下位語) を分類させる。(くだもの: りんご、バナナ、メロン)



展開3 お店屋さんごっこを実施する

児童は、お店屋さんごっこでやりたいお店を決め、品物の名前と絵をカードに書く。店員さんとお客さんの台詞を考え、シンキングツールのベン図で整理する。お店屋さんごっこを実施した後、どの店で何を買ったのか、ものの名前を振り返る。



まとめ

ロイロノートの利点の一つである、「カードを自由にとって動かす」を活用した授業です。カードをたくさん作って動かすことで、例示から分類までをわかりやすく・スムーズに実施できます。児童はお店屋さんごっこをすることで、楽しみながら「ものの名まえ」の理解を深めることができました。

詳細をWebページで見る



※ 掲載されている所属名は、事例提出時の情報です。

ワークシートや授業の解説動画はQRからご参照ください。

LoiLo認定自治体・LoiLo認定校のご紹介

LoiLo認定自治体・LoiLo認定校とは？

LoiLoでは、LoiLoノート・スクールを活用し、生徒主体の学びづくりに積極的に取り組んでいる自治体・学校を「LoiLo認定自治体」「LoiLo認定校」として認定しています。

2022年11月の制度開始以来、3自治体・23校が認定されています。(2024年6月時点)



東北地方

東奥義塾中学校・高等学校（青森県）
郡山ザベリオ学園小学校（福島県）
福島県立修明高等学校（福島県）

関東地方

日本体育大学柏高等学校（千葉県）
東京都市大学等々力中学校・高等学校（東京都）
日本大学櫻丘高等学校（東京都）
藤村女子中学・高等学校（東京都）
宝仙学園小学校（東京都）

中部地方

岐阜市（岐阜県）
土岐市（岐阜県）
多治見西高等学校附属中学校（岐阜県）
加藤学園高等学校（静岡県）
東海大学付属静岡翔洋小学校（静岡県）
日本大学三島高等学校・中学校（静岡県）
津市立敬和小学校（三重県）

近畿地方

立命館守山中学校・高等学校（滋賀県）
ノートルダム学院小学校（京都府）
城南学園小学校（大阪府）
大商学園高等学校（大阪府）
雲雀丘学園小学校（兵庫県）

四国地方

四国中央市（愛媛県）
大手前高松中学・高等学校（香川県）
愛光中学・高等学校（愛媛県）
愛媛大学教育学部附属中学校（愛媛県）
済美平成中等教育学校（愛媛県）

九州地方

敬愛小学校（福岡県）

ものの名まえ

単元

ものの名まえ

指導要領

[知識及び技能] (1) ア、オ
[思考力、判断力、表現力等] A (1) オ

授業者

四国中央市立妻鳥小学校
片山 真美 先生

授業名: ものの名まえ

学年: 小学校1年 **教科:** 国語科

単元: ものの名まえ

指導要項: [知識及び技能] (1) ア、オ
[思考力、判断力、表現力等] A (1) オ

授業者 (学校名): 片山 真美 (四国中央市立妻鳥小学校)

展開1

学習課題を確認し、見通しをもつ。

教科書を読み、お店屋さんごっこをするための学習計画を立てる。

展開2

ものの名まえに上位語と下位語があることを知り、分類する。

教師が配布した下位語のカードを決められた上位語に分類する。

展開3

お店屋さんごっこの準備をする。

自分のお店を決め、そのお店で何を売るのかをカードに一つずつまとめる。カードが全部できたら、お店屋さんとお客さんの話す言葉について考える。

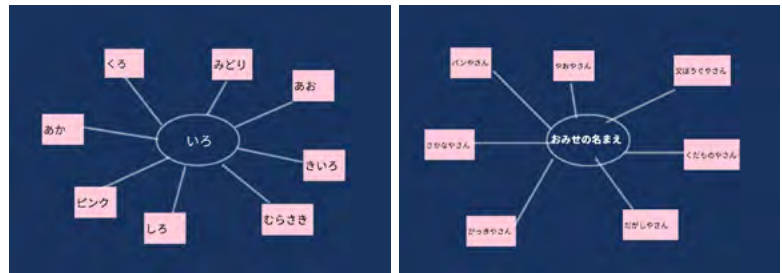
展開4

お店屋さんごっこをする。

お店屋さんごっこをし、どのお店で何を買ったのかを言葉で振り返る。

展開1 学習課題を確認する

教員が教科書を範読し、ものの名前には、上位語と下位語があることを説明する。シンキングツールのウェビングを使い、理解を深めさせる。展開3でお店屋さんごっこを実施する際に、どのようなお店があったら楽しいかを考えさせる。



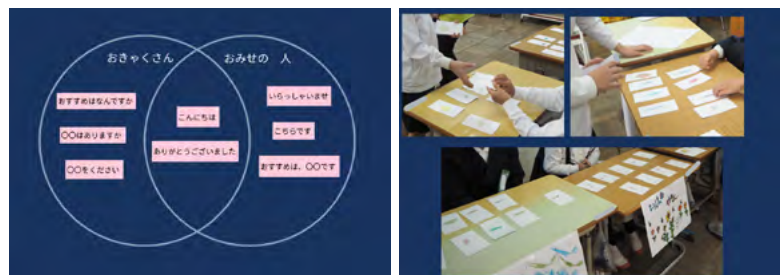
展開2 上位語・下位語を分類する

ものの名前には「まとめた名まえ (上位語)」「一つひとつの名まえ (下位語)」があることを理解させるため、表を使って分類させる。さらに、教員が配布した複数のカード (下位語) を分類させる。(くだもの: りんご、バナナ、メロン)



展開3 お店屋さんごっこを実施する

児童は、お店屋さんごっこでやりたいお店を決め、品物の名前と絵をカードに書く。店員さんとお客さんの台詞を考え、シンキングツールのベン図で整理する。お店屋さんごっこを実施した後、どの店で何を買ったのか、ものの名前を振り返る。



まとめ

ロイロノートの利点の一つである、「カードを自由に作って動かす」を活用した授業です。カードをたくさん作って動かすことで、例示から分類までをわかりやすく・スムーズに実施できます。児童はお店屋さんごっこをすることで、楽しみながら「ものの名まえ」の理解を深めることができました。

詳細を Web ページで見る



調べたことを正確に報告しよう

単元

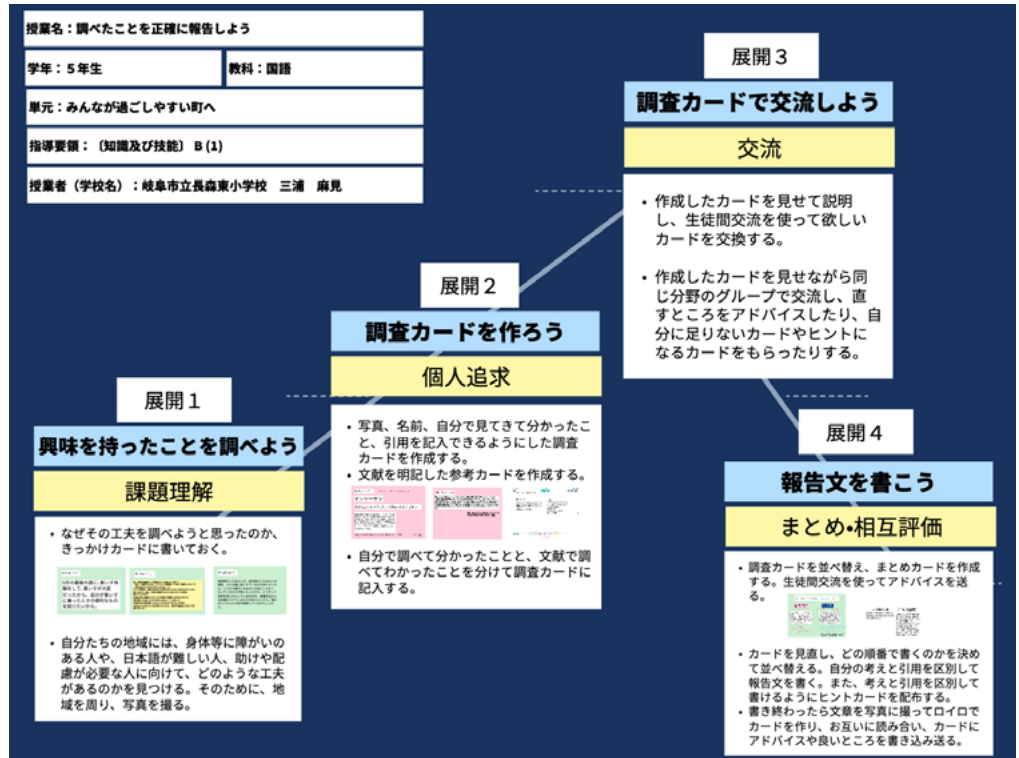
みんなが過ごしやすい町へ

指導要領

〔知識及び技能〕B(1)

授業者

岐阜市立長森東小学校
三浦 麻見 先生



展開1 興味を持ったことを調べる

自分たちの地域にあるバリアフリーやユニバーサルデザインについて、自分が調べたいテーマを決めさせる。さらに、「なぜそのテーマを調べようと思ったのか」を「きっかけカード」に書かせる。

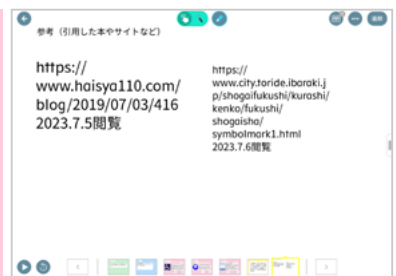
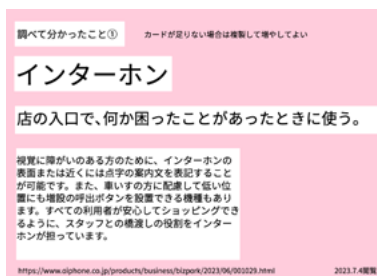
児童は、実際に地域をまわり、助けや配慮が必要な人に向けた工夫を見つけ、写真を撮る。

調べたきっかけ

視覚障がいのある人や、身体障がいのある人が普段、どんな風に過ごしているのか知りたいから。いつから障がいのある人が過ごしやすくなっているのが気になったから。どうやって点字を学んだりしているのかや、盲導犬はどんな訓練をうけているのかを知りたいから。僕のおじいちゃんの体が麻痺しているからしりたい。

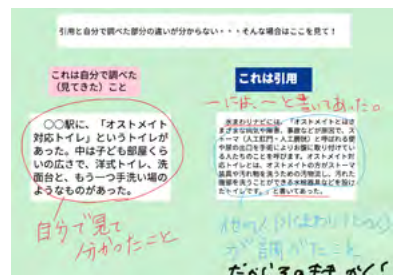
展開2 調査カードを作る

撮影した写真・名称・自分で見て分かったことを調査カードにまとめさせる。さらに、自分が見たものについて、文献で調べた内容を参考カードに記入させる。その後、調査カードに自分の考えと、文献で調べて分かったことを分けて記入させる。



展開3 調査カードで交流する

同じテーマを選んだ児童でグループを作り、意見交流をする。自分に足りない/ヒントになる情報を送り合う。交流後、各児童に報告文を書かせる。自分の考えと引用を区別できるよう、ヒントカードを配布する。報告文が書けたら、児童同士でカードを見せ合い、良いところやアドバイスを送り合う。



まとめ

ロイロノートなどのICTを活用することで、児童は自分の好きなように情報をまとめ、組み立てることができます。文章を書くことに苦手意識を持っている児童も、意欲的に取り組むことができます。さらに、児童間交流を取り入れることで、互いの学びをより良いものにでき、自信にもつながります。

詳細を Web ページで見る



レベルアップ音読（詩の暗唱・音読発表）

単元

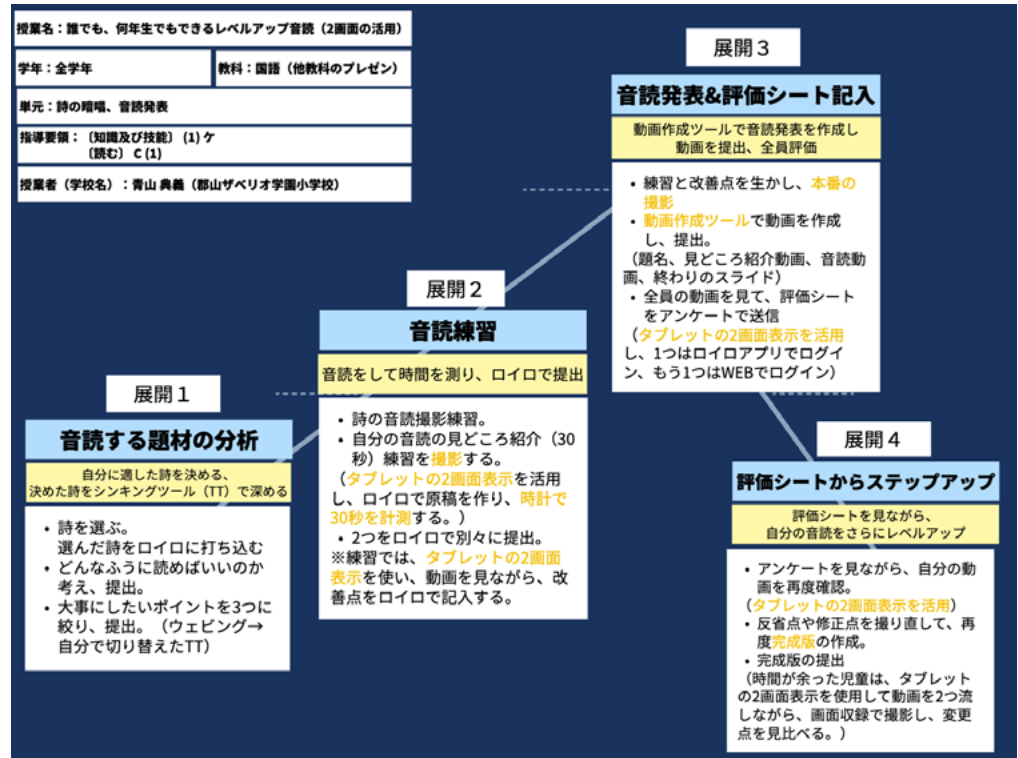
単元に捉われない内容
(詩の暗唱、音読発表など)

指導要領

[知識及び技能] (1) ケ
[読む] C (1)

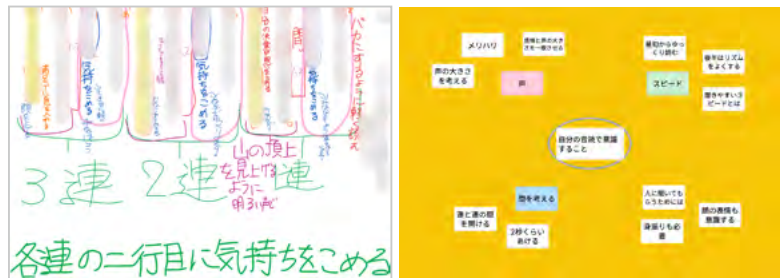
授業者

郡山ザベリオ学園小学校
青山 典義 先生



展開1 音読する題材を分析する

児童は音読する詩を選び、どのように読むのが良いか考える。考えた内容を音読する詩のカードに書き込む。さらに、シンキングツールのウェビングを使って、音読する上で大事にしたいポイントを3つに絞って提出する。



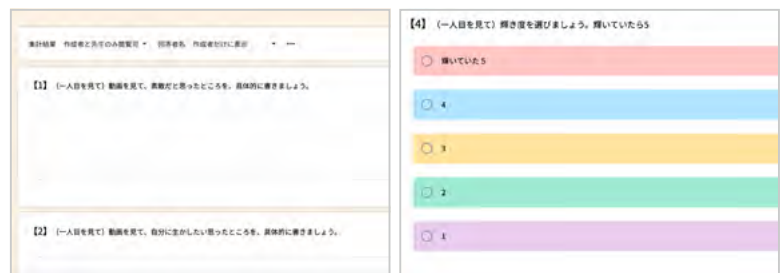
展開2 音読練習をする

音読練習を行う。音読を録音し、録音した音声を聞き返して、自らの改善点を挙げていく。
さらに、自分の音読のアピールポイントを30秒でまとめ、動画撮影する。撮影した2つの動画 (練習・ポイント紹介) をロイロノートで提出する。



展開3 音読の相互評価を行う

練習と改善点を活かして、最終提出用の音読を撮影、提出する。提出された音読動画を児童同士で鑑賞し合い、評価アンケートを記入する。
他の児童からのフィードバックを踏まえて、再度音読を撮影し、完成版を提出する。



まとめ

録音機能を使って自分の音読を振り返ったり、シンキングツールで読み方の分析・整理をしたりすることで、音読スキルを高めることができます。ICTのさまざまな機能を使うことで、楽しみながら、効果的に音読に取り組めるよう工夫しました。

詳細を Web ページで見る



かたちづくりの過程を動画にしよう

単元

かたちづくり

指導要領

B 図形 (1)

授業者

ノートルダム学院小学校
與座 幹太 先生

| | |
|------------------------------|-------|
| 授業名：自作の形の説明書作り | |
| 学年：1年 | 教科：算数 |
| 単元：かたちづくり | |
| 指導要領：B 図形 (1) | |
| 授業者 (学校名)：與座 幹太(ノートルダム学院小学校) | |

展開1

ゴールの形を決めよう

もとの形からゴールの形を決める

使う枚数を決め、ゴールの形を考える。
ずらす・まわす・裏返すを必ず1回ずつは使うことを確認する。

スタートの形 ゴール形の形

展開2

手順を考えよう

何手でゴールの形になるか確かめる

どう動かせばスタートの形からゴールの形になるか。机上で確かめる。

展開3

説明書を作ろう

もとの形から一手ずつ、写真を撮りカードを繋げる。

一手ごとに写真を撮り、どう移動させたかを書き加えていく。

展開4

動画にして共有しよう

カードの連結を動画にし、共有する

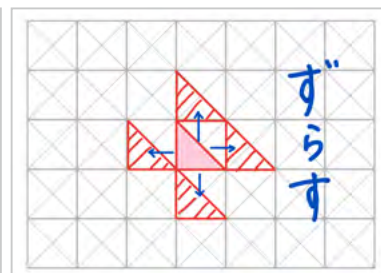
カードの連結を動画に変換し、提出ボックスに提出する。
提出ボックスを共有し、お互いの良いところを話し合う。

展開1 完成形のかたちを決める

紙のワークシートを配布し、ゴールの形(完成形)を決めさせる。
変形する際、「ずらす」「まわす」「裏返す」を必ず1回ずつ使うルールとする。

使う枚数を決め、ゴールの形を考える。
ずらす・まわす・裏返すを必ず1回ずつは使うことを確認する。

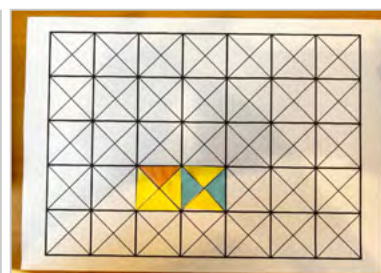
スタートの形 ゴール形の形



展開2 かたちづくりの手順を考える

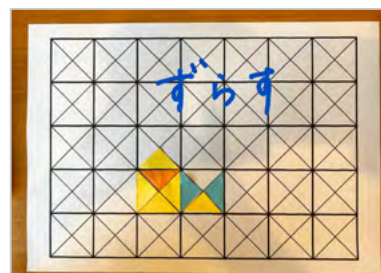
スタートの形から、どうすればゴールの形になるのか、実際に机の上でカードを動かしながら考えさせる。
動かす度に写真を撮影し、どのようにカードを移動したのかを記録させる。

どう動かせばスタートの形からゴールの形になるか。机上で確かめる。



展開3 説明動画を作成する

撮影した写真に、手書きで説明を加えさせる。
写真のカードをつなぎ、説明スライドを作成させる。
さらに、つないだカードを動画として書き出し、提出箱に提出させる。
提出した動画は他の児童にも共有し、互いの良いところを話し合わせる。



まとめ

ゴール(難易度)を児童自身が設定できるので、自分に合った内容で学習を進めることができます。「ずらす」「まわす」「裏返す」という、高学年の図形問題を解くために必要な力の素地も養うことができます。児童は動画を撮るのが楽しいようで、意欲的に参加する様子が見られました。

詳細を Web ページで見る



九九の構成を考えよう

単元

かけ算九九づくり

指導要領

A 数と計算 (1)(3)

授業者

岐阜市立長良東小学校
中川 貴斗 先生

授業名：6の段の九九の唱え方と構成

学年：小学校2年生 教科：算数

単元：かけ算九九づくり

指導要領：A 数と計算 (1)(3)

学習目標：6の段の九九の正しい唱え方を知り、乗数が1増えると積が6ずつ増えることを基にして、6の段を構成することができる。

授業者（学校名）：中川 貴斗（岐阜市立長良東小学校）

展開1

問題をつかむ

前時までの内容を基に、問題解決の見通しを全体で共有し、個人課題を設定する。

問題 6の段を作ろう

①既習の九九を表にし、6の段はどのようになりそうか予想する。
②6の段の答えと九九の唱え方を知る。
③6の段を構成するには、どんな考え方が使えそうか、既習内容を基に見通しをもち、自分の解決したい方法を選択し、課題を設定する。

【選択課題】
6の段の答えはどのようにまとめばよいだろうか。
☑ 図を使って考える ☑ 表を使って考える ☑ 式を使って考える

展開2

自分の考えをもつ

Yチャートから学習カードを選択し、個人課題を解決していくことで自分の考えをはっきりさせる。

「解決の見通し」をもつことができているかの実態把握

こまっています！ 自分で考えてみます。 できそう！

①自分の方で解く見通しがあるかをカードに示して提出する。
②自分の解決方法に合わせた学習カードを選択して考える。
③提出箱に提出する。

展開3

みんなで話し合う

①提出箱にある仲間の考えを見ることで、解決の仕方をも多面的に見る。
②自分とは違う考え方の仲間のもとにいき、説明し合う。
③説明時に、提出箱の中から相手のカードを「つかう」ことで、自分のYチャートに記入する。
④より多くの仲間と解決の仕方进行交流する。

Yチャートで考え方を整理し、思考の見える化を図る。

展開4

活用する

Yチャートで整理した解決の仕方を中心に、共通する考え方を全体で確認し、本時の有効な数学的な考え方を捉える。

①Yチャートを基に考え方を統合的に考察し、どんな数学的な考え方が共通しているか、全体で考えを深める。
「かける数が1増えると、答えは6ずつ増える。」
②カードに振り返りを書き、提出する。
③6の段の九九の暗唱ができるように唱える。
④問題演習で習熟を図る。

展開1 問題をつかむ

既習の九九を表にし、6の段の答えがどうなるか予想させる。
その後、6の段の答えと九九の唱え方を教える。
6の段を構成するには、どのような考え方が使えそうか、見通しを持たせる。その後、右図から解決法を選択させる。

| | | かける数 | | | | | | | |
|--------|---|------|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| かけられる数 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| | 2 | 2 | 4 | 6 | 8 | 10 | 12 | 14 | 16 |
| | 3 | 3 | 6 | 9 | 12 | 15 | 18 | 21 | 24 |
| | 4 | 4 | 8 | 12 | 16 | 20 | 24 | 28 | 32 |
| | 5 | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | 30 | 35 | 40 |
| | 6 | | | | | | | | |

【選択課題】

6の段の答えはどのように求めればよいだろうか。

- 図を使って考える
- 表を使って考える
- 式を使って考える

展開2 自分の考えを明確にする

自分で選択した方法で課題が解決できそうか、カードで意思表示させる。
それぞれの解決法(図/表/式)に使う学習カードを配布し、自分の考えをまとめ、提出箱に提出させる。

「解決の見通し」をもつことができているかの実態把握

こまっています！ 自分で考えてみます。 できそう！

表

図

式

展開3 みんなで話し合う・活用する

提出箱の回答を共有し、他の児童の考えを確認させることで、解決法を多面的に考えさせる。異なる考えを持つ児童同士で、自分の考えを説明し合う。
自分の考えと他者の考えを統合的に考察させるため、提出箱の「使う」機能で他の児童の考えを自分のカードに追加させる。

表

図

式

まとめ

物事を論理的に考える資質・能力を伸ばすため、九九の構成方法について考える授業を考えました。九九の暗唱に終始するのではなく、児童が主体的に考え、学習に取り組めるよう工夫しました。また、児童がロイロノートを活用して意見交流することで、協働的で深い学びとなるようデザインしました。

詳細を Web ページで見ると



L字型の面積の求め方を考えよう

単元

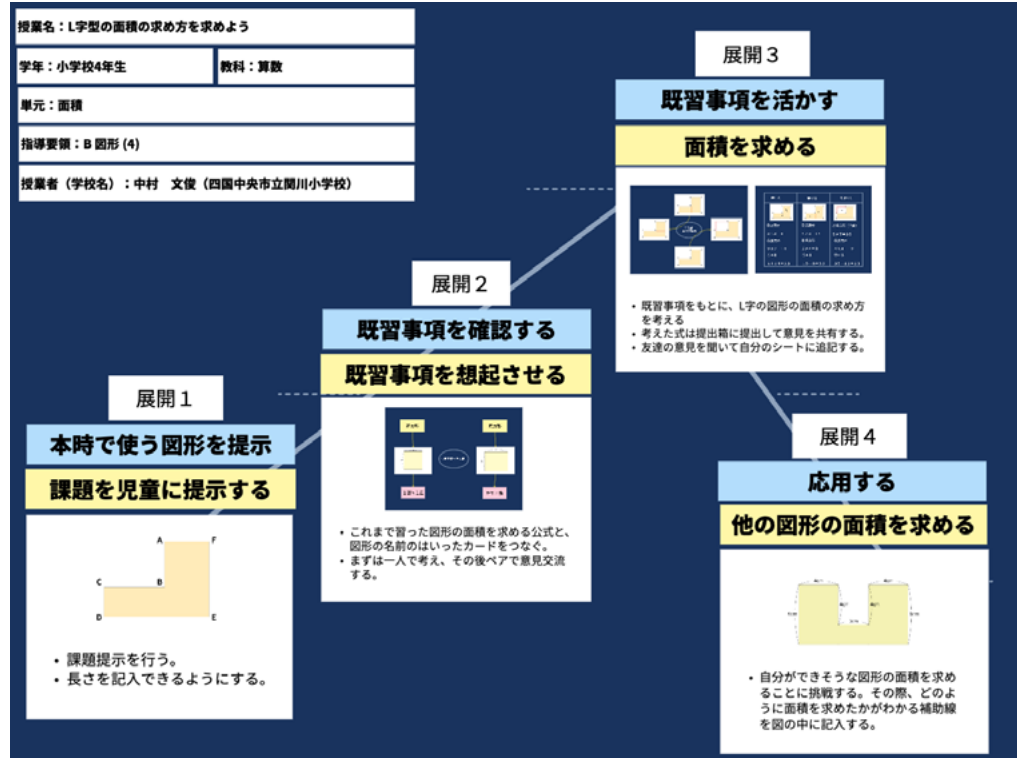
面積

指導要領

B 図形 (4)

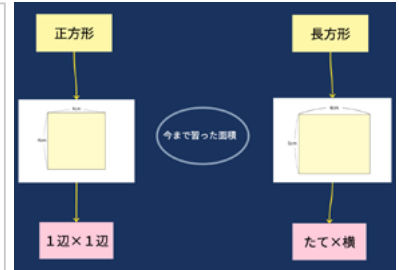
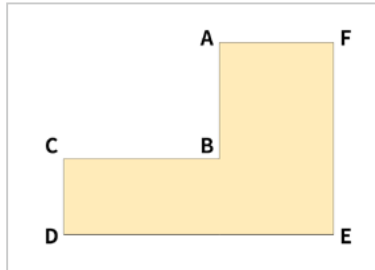
授業者

四国中央市立関川小学校
中村 文俊 先生



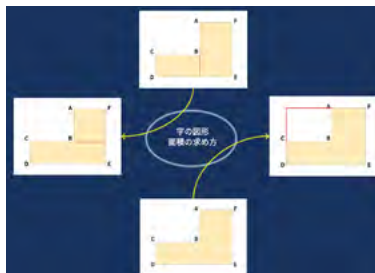
展開1 課題を提示、既習事項を確認する

児童に、課題(L字の図形の面積を求める)を提示し、既習の「図形の面積を求める公式」を確認させる。2種類のカード(図形の名前・図形の面積を求める公式)をつなげさせる。はじめに一人で考えさせた後、ペアで意見交流させる。



展開2 面積を求める

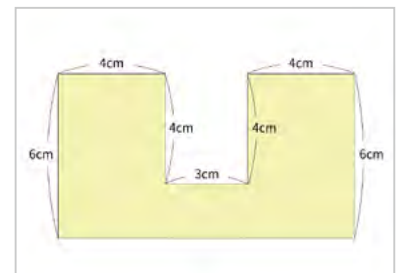
既習事項をもとに、L字の図形の面積の求め方を考えさせる。考えた式を提出箱に提出させ、回答共有機能で意見を共有する。他の児童の意見を聞き、自分のシートに追記させる。



| 横割り法 | 縦割り法 | 取り除く法 |
|---|---|---|
| | | |
| ①正方形 $3 \times 3 = 9$ ②長方形 $2 \times 7 = 14$ ①+② $9 + 14 = 23$ | ①長方形 $5 \times 3 = 15$ ②長方形 $2 \times 4 = 8$ ①+② $15 + 8 = 23$ | ①長方形(全体) $5 \times 7 = 35$ ①長方形 $4 \times 3 = 12$ ①-② $35 + 12 = 23$ |

展開3 他の図形の面積を求める

応用課題として、他の図形をいくつか児童に提示する。児童は面積を求められそうな図形を選択し、課題に挑戦する。課題を解く際は、どのように面積を求めたのかが分かるよう、図形に補助線を記入させる。



まとめ

これまでに学習した「図形の面積の求め方」を復習し、その知識を活用する課題を設定しました。複雑な図形でも、長方形や正方形に分けることで、面積が求めらると気づかせることをねらいとしました。

詳細を Web ページで見る



アサガオを観察しよう

単元

きれいにさいてね

指導要領

〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕(5)

授業者

四国中央市立寒川小学校
薦田 真央 先生

| | |
|------------------------------------|-------|
| 授業名：アサガオを観察しよう | |
| 学年：1年 | 教科：生活 |
| 単元：きれいにさいてね | |
| 指導要領：〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕(5) | |
| 授業者（学校名）：薦田 真央（四国中央市立寒川小学校） | |

展開1

写真を撮って観察

自分のアサガオの写真を撮り、気づいたことを書き込む。

- 友達に伝えたい部分の写真をアップで撮る。
- 自分が撮った写真の注目した部分にペイント機能で丸を入れて丸の横に気づいたことを書き込む。

展開2

気づきを伝え合う

成長の様子や気づきをペア活動で伝え合う

・ペア活動で、写真を見ながら話し合うことができるので、友達の伝えたいことが分かり、話し合い活動が活発になった。

展開3

部分ごとに整理

成長の気づきを全体で発表し、撮った写真をアサガオの部分ごとに整理する。

「葉」、「つる」、「つぼみ」、「花」など、アサガオの部分ごとに整理した。すると、アサガオの部分に気づかせて考えることができ、思考の可視化に有効だった。

展開4

アサガオの成長を振り返る

写真を時系列に並べ、アサガオの成長を振り返り、アサガオへの手紙を書く。

・喜びや自信、アサガオへの親しみが持てるように、成長の記録をノートに蓄積してアサガオの成長を振り返った。

展開1 写真を撮り、気づきを共有する

児童は自分が育てているアサガオを観察し、紹介したい部分の写真をアップで撮影する。手描き機能を使って、自分が注目した部分を丸で囲み、気づいたことを書き込む。ペア活動で、互いに気づいたポイントを共有する。



展開2 写真を分類する

アサガオの成長について、気づいたことをクラス全体で発表させる。児童が撮影した部分が「葉・つる・つぼみ・花」のどれか、シンキングツールのYチャートを使って整理させる。



展開3 成長を振り返る、手紙を書く

児童は観察の記録をノートに蓄積し、アサガオの成長を振り返る。その後、成長への喜びや、アサガオへの親しみを持つことができるよう、育てたアサガオに手紙を書かせる。



まとめ

写真や手描き機能を活用することで、まだひらがなを習い終えていない段階でも取り組むことができます。写真を撮影することで、アサガオの成長に気づきやすくなり、発表でもわかりやすく伝えることができます。成長の過程を蓄積できるので、継続的な栽培活動や観察に効果的です。

詳細を Web ページで見る



結果を予想して、実験方法を考えよう

単元

もののとけ方

指導要領

(1) 物質・エネルギー ①

授業者

岐阜市立七郷小学校
永井 孝直 先生


| | |
|---------------------------|-------|
| 授業名：まだミョウバンは水の中にとけているの？ | |
| 学年：小学校5年 | 教科：理科 |
| 単元：もののとけ方 | |
| 指導要領：(1) 物質・エネルギー ① | |
| 授業者（学校名）：永井 孝直（岐阜市立七郷小学校） | |

展開1

事象から予想をもとう！

ミョウバンがとけた水溶液を再結晶させたビーカーを見て予想をもつ。

- ミョウバンがとけた水溶液を再結晶させたビーカーを提示する。
- まだ水の中にはミョウバンがあるのか、モデル図を用いて予想する。




展開2

実験方法を考えよう！

結果の見通しまでもち、実験方法を考える。

結果の見通しまでもち、キャンディチャートで実験方法を考える。

- 提出箱を回答共有にして、仲間を考えを見て、自由に追記できるようにする。
- 最終結果、最終順位など自分が一番確認しやすいと思った実験方法を一番上に並びかえる。




展開3

実験をして確かめよう！

考えた実験方法で実験して確かめる。

- 過冷却の方法を確認した後、再結晶や蒸発乾固の実験をグループで行う。




展開4

グラフでも確認しよう！

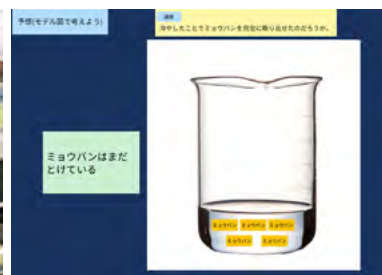
ミョウバンのとけ方をグラフで確認する。

- 温度によってとける量が変化するグラフを提示し、氷水で再結晶させても、まだミョウバンはとけていたことを確認する。



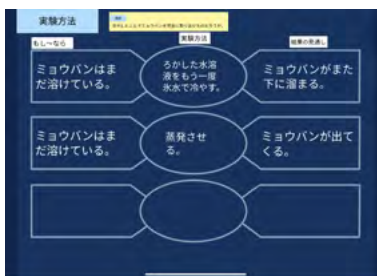
展開1 事象から予想する

ミョウバン水溶液の再結晶の写真を提示する。再結晶後も、水の中にミョウバンが残っているのか、写真を入れたカードを使って、予想させる。



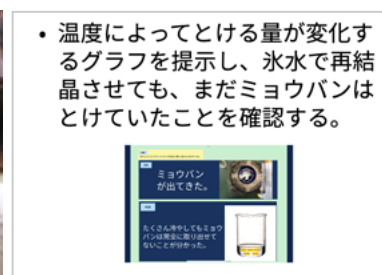
展開2 実験方法を考える

シンキングツールのキャンディチャートを用いて、実験方法と結果の見通しをまとめさせ、提出箱に提出させる。クラス全員の回答を共有し、他の児童が考えた実験方法で良さそうなものがあれば、自分の回答に追記する。実験方法を成功しそうな順番に並び替え、考えをまとめさせる。



展開3 実験で確かめる

過冷却の方法を確認した後、再結晶や蒸発乾固の実験をグループで行わせる。水の温度と溶ける量の変化を表したグラフを提示する。氷水で再結晶させても、まだ水の中にミョウバンが残っていることを確認させる。



まとめ

児童自らが実験方法を考えて、事象を確かめるということを大切にしました。キャンディチャートを用いることで、結果の見通しを持って実験を行うことができます。子どもたちは自分で考えた実験が行えるため、目を輝かせて主体的に取り組んでいました。

詳細を Web ページで見る



共有ノートで、オリジナル図鑑を作ろう

単元

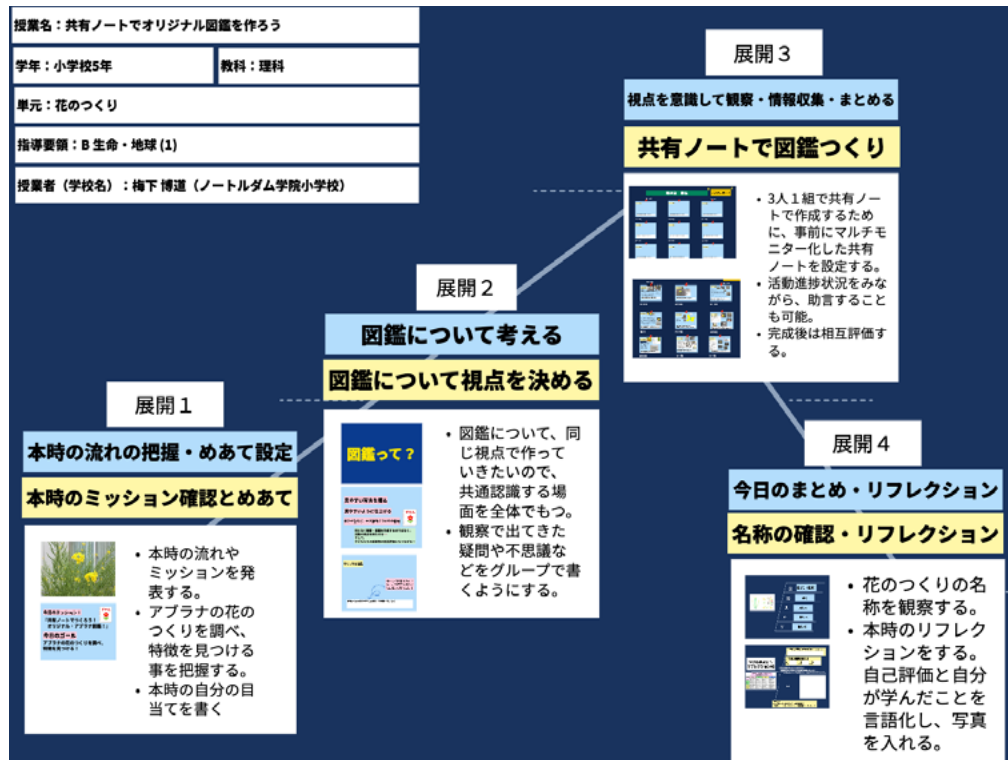
花のつくり

指導要領

B 生命・地球 (1)

授業者

ノートルダム学院小学校
梅下 博道 先生



展開1 本時のめあてを設定する

本時の流れを説明し、「アブラナの花のつくりを調べ、特徴を見つける」というゴールを確認する。その後、「本時の自分のめあて」を書かせる。クラス全体で、図鑑の完成イメージやポイントなどを確認する。観察中に出てきた疑問点はグループで共有させる。

今日のミッション！

『共有ノートでつくろう！
オリジナル・アブラナ図鑑！』

今日のゴール

アブラナの花のつくりを調べ、
特徴を見つける！

オリジナル図鑑

何となく観察するのではなく、探求する部分との出会いの場を設定！

観察からの自分が見つけた疑問・不思議・問いなど

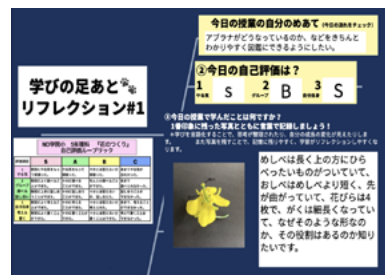
展開2 観察・情報収集をする

共有ノートに各グループのワークシートを配置し、3人1組のグループで観察させる。互いに情報共有しながら観察し、適宜助言も行う。図鑑が完成したら、共有ノート上で各グループの図鑑を鑑賞させる。



展開3 本時の振り返り・まとめを行う

シンキングツールのくまでチャートを用いて、花のつくりの名称を確認する。その後、リフレクションシートで、本時の振り返り・まとめを行う。自己評価ルーブリックをもとに、自己評価を行う。写真を入れて、自分が学んだことを記入する。



まとめ

観察のポイントを明確にした上で、グループで観察し、図鑑を作成させました。共有ノートマルチモニターとして活用することで、他のグループの図鑑を参考にしながら、楽しく取り組むことができます。子ども同士で実物を観察し、情報交換しながら図鑑を作成することで花のつくりを学べます。

詳細を Web ページで見る



大日本帝国憲法と日本国憲法を比較してみよう

単元

明治の国づくりを進めた人々

指導要領

(2) 日本の歴史ア(1)

授業者

岐阜市立則武小学校
三津橋 誠也 先生

| | |
|---------------------------|-------|
| 授業名：大日本帝国憲法 | |
| 学年：小6 | 教科：社会 |
| 単元：明治の国づくりを進めた人々 | |
| 指導要領：(2) 日本の歴史ア(1) | |
| 授業者（学校名）：三津橋誠也(岐阜市立則武小学校) | |

展開1

大日本帝国憲法のイメージ

「大日本帝国憲法の発布」の図から、気づいたことを交流する。

- 「大日本帝国憲法の発布」の図に気がついたことを記号や言葉などで書き込んでいく。
- それを仲間と交流し、大日本帝国憲法のイメージを共有する。

展開2

伊藤博文の思い


伊藤博文はどのような国づくりをしたかったのかを、大日本帝国憲法の内容から調べる。

- 大日本帝国憲法の内容を調べ、ウェビングで書き出す。
- 視点ごとにまとめていく。
- 伊藤博文がどのような国づくりをしたかったのかを、まとめる。

展開3

大日本帝国憲法と日本国憲法の比較

大日本帝国憲法と日本国憲法には、どのような違いがあるかをまとめ、交流する。




- 共有ノートを使い、班でシンキングツール(ベン図)に視点(天皇の権限・内閣・裁判所・議会・その他)ごとにまとめていく。
- 大日本帝国憲法と日本国憲法の違いをまとめることで、大日本帝国憲法の特徴を理解する。

展開4

近代国家成立の流れ

国や社会の仕組みの変化についてまとめ、説明動画にまとめる。

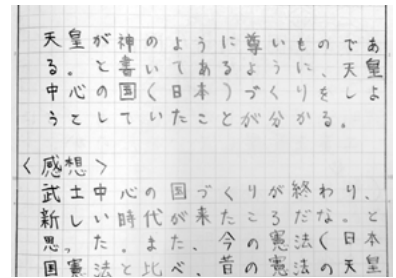


- プロット図を使って、明治時代のスタートから大日本帝国憲法成立までの流れをまとめる。
- 作ったプロット図を使って、自分の言葉で説明した動画を作る。

展開1 大日本帝国憲法のイメージを捉える

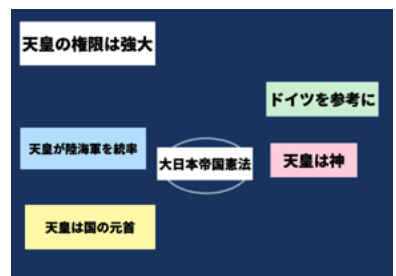
「大日本帝国憲法の発布」の図を配布し、気づいたことを記号や言葉などで書き込ませる。

児童に書き込んだ図を提出箱に提出させ、クラス全体に共有する。それをもとに、クラス全体で意見交流を行い、大日本帝国憲法のイメージを共有する。



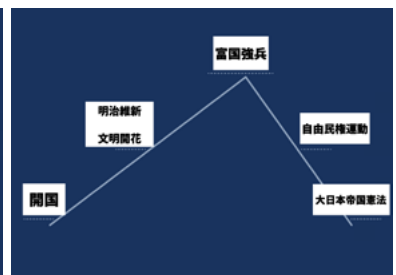
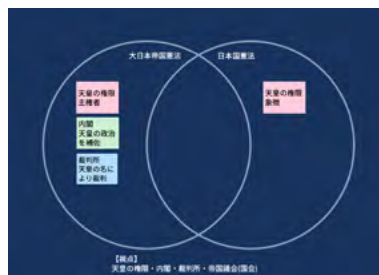
展開2 伊藤博文の思いについて考える

大日本帝国憲法の内容を調べ、シンキングツールのウェビングに書き出させる。児童は自分で視点を設定し、意見をまとめながら、伊藤博文がどのような国づくりをしたかったのかを考える。作成した図は提出箱で共有し、他の児童の意見も参照させる。



展開3 2つの憲法を比較する

児童は、グループで共有ノートを使い、大日本帝国憲法と日本国憲法を比較する。シンキングツールのベン図で、「天皇の権限」「内閣」「裁判所」などがどのように扱われているのかをまとめる。その後、プロット図を使い、明治時代の初めから大日本帝国憲法成立までの流れを動画にまとめ、提出させる。



まとめ

ベン図を使って大日本帝国憲法と日本国憲法を比較することで、明治の国づくりについて理解を深めることができます。また、共有ノートを使った協働学習を取り入れることで、学びや思考の促進につながります。

詳細を Web ページで見る



道案内をしよう Around Town

単元

Around Town

指導要領

- (1) 聞くこと
- (2) 読むこと
- (3) 話すこと [やり取り]

授業者

雲雀丘学園小学校
森下 真伊 先生

| | |
|--|-------|
| 授業名：Where is the school? | |
| 学年：小4 | 教科：英語 |
| 単元：Around Town | |
| 指導要領：(1) 聞くこと (2) 読むこと (3) 話すこと [やり取り] | |
| 授業者 (学校名)：森下 真伊 (雲雀丘学園小学校) | |

展開1

Let's make a town!

自分の街を作り、必要な言葉やフレーズの練習をする。

- 配信された教材を使って、自分の街を作り、提出箱に提出する。
- 必要な言葉のスライドを使って全体で練習する。
- 一人で練習をする。あらかじめ各カードに発音のお手本が録音してあるので、分からない時はそれを聞いて確認する。
- ペア(とりのりの人)と練習をし、お互いの発音を確認し合う。
- 位置関係を表すスライドを配信し、同じように全体練習→一人練習→ペア練習をする。スラスラと言えるようになったら、カードインカード機能を使って、文字を隠して練習をする。

展開2

Practice

自分が作った地図を使って、道案内の練習をする。

- ペアで、お互いが作った地図を使って、"Where's the ○○?" "It's next to the ○○"のやりとりをする。
- 全体で練習をし、地図上で位置関係を表すには、いろんな言い方ができることをおぼえさせる。
- ここまでの学習内容に加え、"Go straight for ○ blocks.", "Turn left.", "Turn right."を導入し、ある起点から目的地までの道案内の練習をする。
- 行き方が複数あり、自分で考えて自由に決めてよいことをおぼえさせる。
- 人物の背景を透過した写真(それぞれのクラスの担任の先生が盛り上がる)を配信し、ペアで聞いている児童は、相手の道案内を聞いて、人物写真を地図上で動かす。

展開3

Dialogue Activity

自分や友だちが作った地図を使って、道案内のやりとりをする。

- 会話のやり取りのワークシート配布し、全体で練習をする。
- ワークシートの下線部、道案内の部分はこれまでの学習を元に自分で考えて自由に話す。道案内の最後に目印となる場所を2つ言うことだけはルールとする。
- "Let's make a town!" で作った提出箱をクラス全員に共有し、ペアで案内する役、道を探る役に分かれ、いろんな友だちが作った地図を使って道案内の会話のやり取りをする。
- スラスラ話せるようになったら、ワークシート右下の"道を尋ねる役"「案内する役」のの中に○をする。

展開4

Presentation, Self reflection

まとめ、振り返り

- 選んだ地図を教室のモニターに映し、ペアでのやり取りをクラス全体で発表する。
- ロイロのアンケート機能を使って振り返りをする。

展開1 道案内に使う街を作る

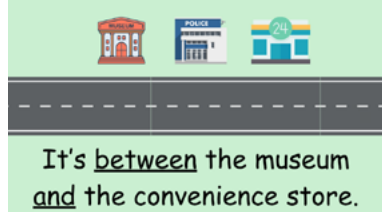
児童は、家や店の画像カードを使って自分の街(地図)を作り、提出箱に提出する。その後、街を説明するための表現を各自/ペアで練習する。

場所を表す前置詞を使った表現・単語の発音は、画像カードに録音されている音声を参考にする。



- これらのアイテムを全部使って、自分の街を完成させよう!
- 1つ1回しか使えません。大きさも自分で調整しよう!
- 出来たら、提出箱 My Town に地図のみを提出してね
- Let's make a townのスライドショーで単語の練習もしましょう

Where is the police station?



展開2 道案内の練習をする

児童は、作った地図を使って、道案内のペアワークを行う。

(Where's ~? It's next to ~. / Go straight for ~ blocks.)

聞き手の児童は道案内を聞きながら、人物カードを地図上で動かし、聞いた内容を正しく理解できているかを確認させる。



展開3 さまざまな地図で道案内をする

会話練習のワークシートを配布し、全体で練習する。

目印となる場所を2つ説明することとし、それ以外の道案内はこれまで学習した表現を使い、自由に表現する。さらに、展開1で作った地図を提出箱で共有する。

他の児童が作った地図を使って、道案内のペアワークを行う。

最後に全体で発表を行う。

まとめ

自分で考え、自分の言葉で道案内ができるように、展開1と2では、たくさんアウトプットを促します。ロイロノートのさまざまな機能を使うことで、児童が飽きずに、楽しく練習ができるよう工夫しました。全員が「できた!」と実感できることを目指しました。

詳細を Web ページで見る



アニメを使ったアフレコ活動 I want to go to Italy.

単元

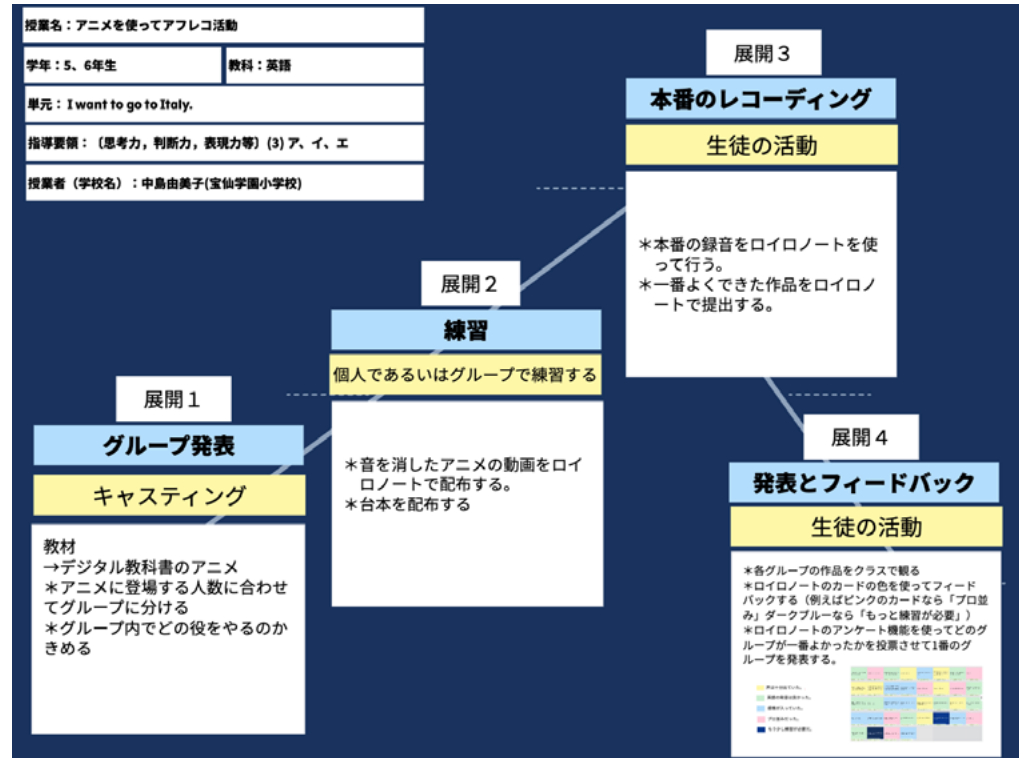
I want to go to Italy.

指導要領

〔思考力, 判断力, 表現力等〕(3) ア、イ、エ

授業者

宝仙学園小学校
中島 由美子 先生



展開1 配役を決める

デジタル教科書のアニメを使い、英語でアフレコを行う。
 アニメに登場する人数に合わせてグループを作り、キャラクターの配役を決めさせる。

展開2 アフレコの練習・録音をする

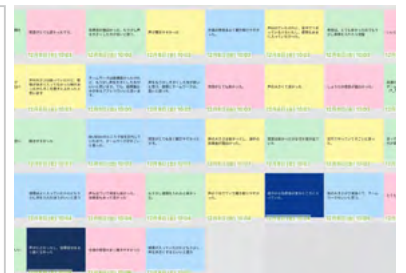
音を消したアニメの動画と台本を、ロイロノートで配布する。
 児童は、配布された動画と台本を見ながら、カードに録音する。
 自分の音声を聴いて、何度も練習する。
 うまくできるようになったら、グループ全体で録音を行い、一番良くできたものをロイロノートで提出させる。



展開3 発表・フィードバックを行う

提出箱で共有された各グループの動画を互いに鑑賞させ、児童同士でフィードバックを行う。フィードバックは、カードの色で表現させる。
 最後に、アンケート機能を使い、どのグループが一番良かったのか投票させ、一位のグループを発表する。

- 声は十分出ていた。
- 英語の発音は良かった。
- 感情が入っていた。
- プロ並みだった。
- もう少し練習が必要だ。



まとめ

英語を楽しみながら繰り返し聞き、声に出して練習させるため、ロイロノートを使ったアフレコを考えました。これを機に、児童はデジタル教科書内の他のアニメを見る機会が増えました。自立学習を促すためにも有効な活動であると考えています。

詳細を Web ページで見る



喫煙の害について考えよう

単元

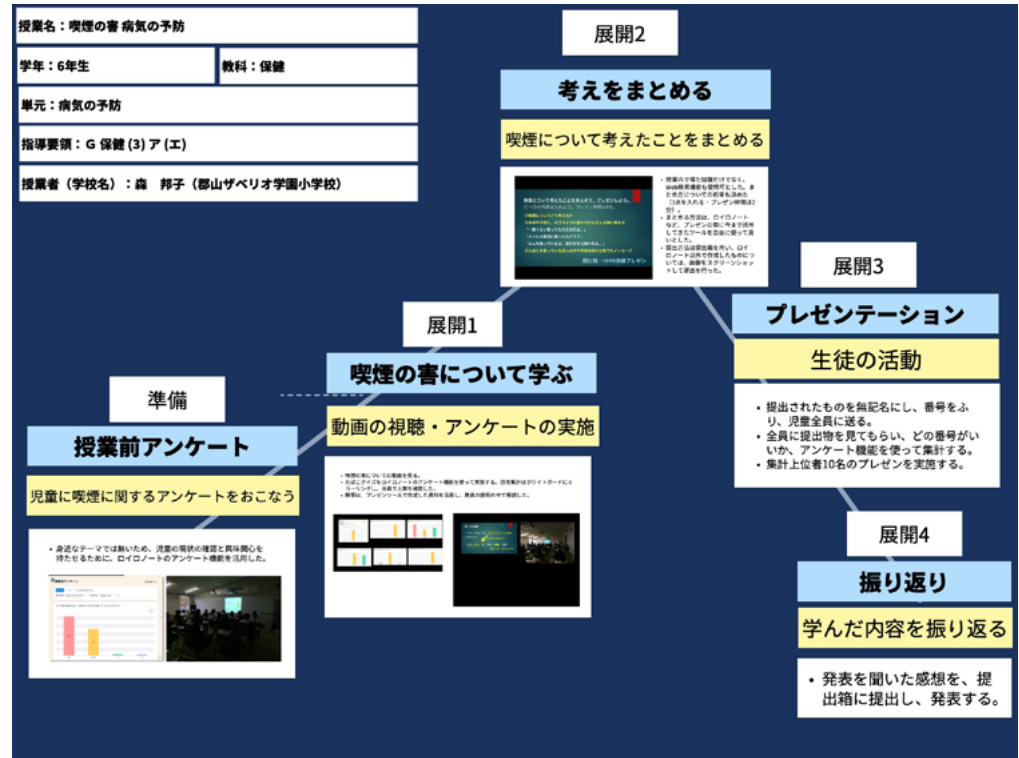
病気の予防

指導要領

G 保健(3)ア(エ)

授業者

郡山ザベリオ学園小学校
森 邦子 先生



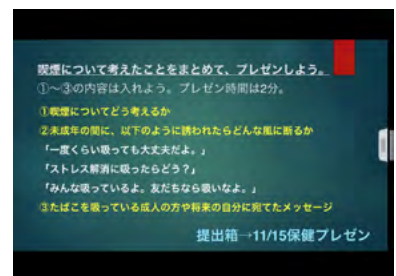
展開1 喫煙の害について知る

児童の認識確認、興味喚起のため、喫煙に関するアンケートを実施する。(アンケートカード)
 喫煙の害について動画で学習した後、テストカードを使い、内容確認のためのクイズを行う。



展開2 考えをまとめる

喫煙に関する自分の考えをプレゼンテーションにまとめさせる。
 発表時間は1人2分。授業で得た知識だけでなく、Web検索機能も使用可とする。
 作成したプレゼンテーションは提出箱に提出させる。



展開3 発表する

提出箱に集まったプレゼンテーションを無記名にしてから番号を振り、児童全員に配布する。児童は、良いと思うものを1つ選び投票する。(アンケートカード)
 上位10名は、全員の前で発表を行う。
 最後に、発表を聞いた感想をカードに記入、提出箱に提出・発表させる。

まとめ

ロイロノートひとつで、アンケートやクイズ、Web検索、プレゼンテーションがすべて実施できるため、理解度チェックから調べ学習、発表までをスムーズに進めることができます。提出箱の回答共有機能で、児童の意見を全体共有することも、プレゼン準備に有効です。

詳細を Web ページで見る



自主学習の取り組み方について考えよう

単元

一人一人のキャリア形成と自己実現

指導要領

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現ウ

授業者

岐阜市立加納小学校
岩越 太亮 先生

授業名：自主学習について考えよう

学年：3年生 教科：特別活動

単元：(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

指導要領：(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現ウ

授業者（学校名）：岩越 太亮（岐阜市立加納小学校）

事前

自分自身を振り返る

アンケートに答える

ロイロノートのアンケート機能を使用する。自分自身の家庭学習の取り組み方や、学習をする意義についての問いに答える。

展開1

問題意識をもつ

共有ノートのアンケート結果からわかったことを発表する

アンケート結果を共有ノートで確認する。アンケート結果（棒グラフ）から、自分のためになる家庭学習とは、どのようなものかを考えていくという課題意識をもつ。

展開2

交流

意義や方法について発表する

事前のアンケート結果をもとに、家庭学習をする意義や方法について交流していく。提出箱に自分の考えを提出して、画面共有をして考えが視覚できるようにする。

展開3

実践策をもつ

他学年の自主学習の仕方から自分に合った学習方法を獲得する

他学年で実践しているノート資料について、共有ノートに載せて、どんな学習の仕方が自分にあっているのか実践策をもてるようにする。

事後

自主学習の行い方について振り返る

実践策をもとに家庭学習を行うことができるか振り返る

- シンキングツールのデータチャートをもとにしたふりがしシートを活用して普段の学習を振り返る。
- 自主学習の仕方でよい方法で行っている子のノートを共有ノートで共有できるようにする。

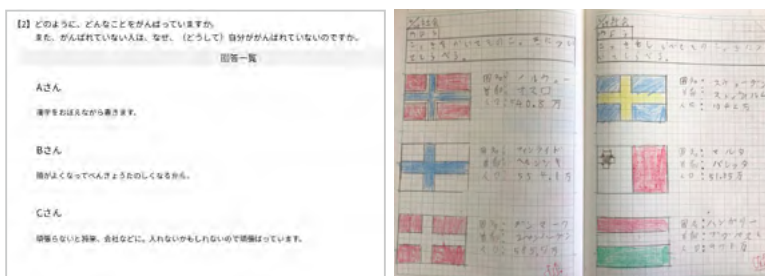
展開1 アンケートを実施、考えをまとめる

家庭学習の取り組み方、学習の意義について、アンケートを実施する。
共有ノートを使って、アンケート結果を全体共有し、児童に「自分のためになる家庭学習とはどのようなものか」を考えさせる。



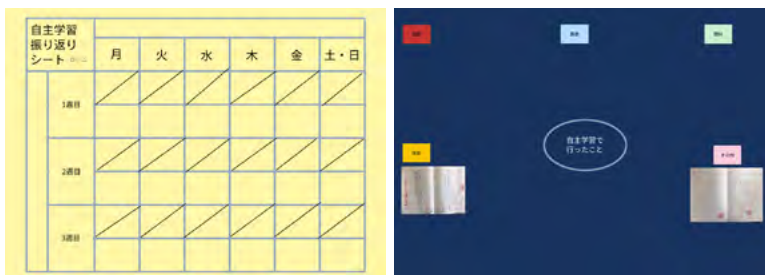
展開2 学習の意義・方法を話し合う

児童は、家庭学習の意義や方法について、自分の考えをまとめて提出箱に提出する。
教員は、集まった意見をクラス全体に共有する。
さらに、他学年の事例（児童のノート写真）を共有ノートで見せ、どのような学習方法が自分に合っているか、考えを深めさせる。



展開3 学習方法の改善策をまとめる

シンキングツールのデータチャートを活用した振り返りシートで普段の学習を振り返り、学習方法の改善策をまとめさせる。
(共有ノートを使うことで、他の児童のアイデアも確認できるようにする。)



まとめ

ロイロノートを使うことで、音声では指示が通りにくい児童も、目で見ても理解できるため、とても有効です。
また、自分にあった学習方法について、深く考えるきっかけになればと思い、さまざまな事例（他のクラス・学年のノート資料など）を共有しました。

詳細を Web ページで見る



愛媛県 四国中央市

四国中央市教育委員会 教育指導部学校政策課
(右から) 鈴木 崇士 氏・馬越 博之 氏



120人を超えるロイロ認定ティーチャーが誕生！
教員同士の学び合いで、ICTを活用した
授業改善が大きく進みました。

四国中央市は、モデル校を設けず、すべての学校でICTを一斉導入しました。年間 約40回の研修を通して、全教職員が学び合いながら、ICTを活用した授業改善を進めてきました。2022年には全国初のロイロ認定自治体として認定され、現在は120人を超えるロイロ認定ティーチャーが在籍しています。今後も、デジタルとアナログを上手く使い分けながら、子ども主体の学びを追求していきます。

Q1 ICTを活用した授業改善のために、自治体として、どのような取り組み・研修を実施しましたか？

令和2年度より、愛光学園中学・高等学校の和田 誠 先生(ロイロ認定イノベーター)にアドバイザーとしてご支援いただき、全教職員対象のロイロノート基礎研修を実施しました。ロイロノート導入後は、全国のロイロ認定ティーチャーによる授業デザイン研修など、年間 約40回の研修を行いました。先生方は活用場面を具体的にイメージでき、意欲的に授業改善に取り組んでいました。

Q2 認定自治体を目指していったことで、どのような変化がありましたか？

ロイロ認定ティーチャーの資格取得に取り組んだことで、教員同士の学び合いが広がりました。市内でのICT活用事例を共有することで、積極的にICTを活用する風土が醸成されました。2022年には全国初のロイロ認定自治体に認定され、2024年現在では、120人を超えるロイロ認定ティーチャーが在籍しています。

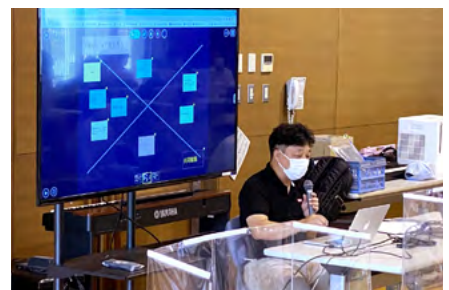
Q3 認定されて良かったことは？

全国のロイロ認定ティーチャーを研修にお招きできるようになり、研修内容がより充実しました。先生方のロイロノートの活用スキルが向上し、個別最適な学びが協働学習につながる授業へと進化しました。こうした授業が市内すべての学校で実施されるようになり、日本ICT教育アワードの受賞につながりました。

Q4 今後、どのような教育を目指していきますか？

子ども主体の教育を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指します。今後は、デジタルとアナログのベストミックスを模索することが重要だと考えています。誰一人取り残すことのない、子ども主体のあたたかな教育を推進していきます。

詳細はこちら

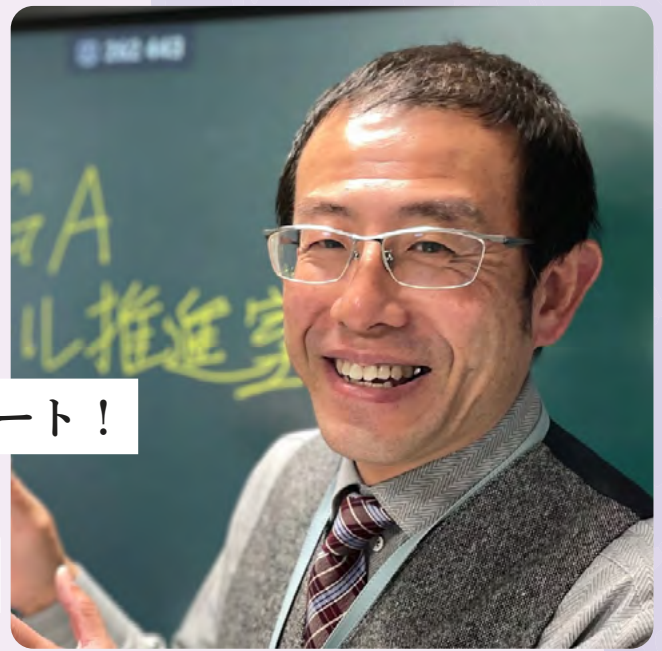


岐阜県 岐阜市

岐阜市立鷺山小学校

岐阜市教育委員会（認定当時）

栗本 光彰 氏



ICTを活用して、授業をアップデート！

認定自治体を目指すことで

市全体で授業改革ができました。

岐阜市では2022年度の先行導入校での導入から、わずか2年で認定自治体認定を達成することができました。認定に向けてさまざまな研修や取り組みを進めていく中で、先生方の授業改善へのモチベーションを大きく上げることができました。ロイロノートの導入、認定自治体の認定を通じて、全国学力調査のICT活用指標など、さまざまな指標が大幅に向上し、先生方の授業観も、子どもたちの考え方も大きく変わっていったと感じています。

Q1 ICTを活用した授業改善のために、自治体として、どのような取り組み・研修を実施しましたか？

まずは2022年夏に先行実証校でICT・ロイロ研修を実施し、全市導入後での他校への事例の伝播を目指しました。その後、2023年2月・3月に全校で研修を行い、2023年4月の正式利用開始当初からスムーズに利用を開始することができました。また、2023年の夏には各学校のICT利活用推進リーダーとなる先生育成のための研修を行いました。このように、数多くの研修を通じて岐阜市全体でICTの利活用の推進を図りました。

Q2 認定自治体を目指していったことで、どのような変化がありましたか？

「全国で二例目、岐阜県では初の認定自治体を目指す」と推進リーダーの先生方にお伝えしたところ、率先してICTの利活用を進め、他の先生方にも積極的に活用を促していただきました。また、認定ティーチャーの認知度が向上したことで、学校間の情報共有が活発になり、学校の垣根をこえた研修が自主的に開催されるなど、学び合いの機会が増えました。

Q3 認定されて良かったことは？

認定自治体として全国的に認知されたことで、先生方の努力と先進的な取り組みを広く発信することができました。また、周辺自治体からも注目されるようになりました。市内の先生方は、自分たちの取り組みが高く評価されていることを知り、授業実践に対する自信と誇りを持たせよう、モチベーション向上につながっています。

Q4 今後、どのような教育を目指していきますか？

岐阜市では、ロイロノート導入を機に、授業のあり方、子どもの学び方を大きく変えることができました。今後は、個別最適・協働的な学びへの転換をさらに進めるとともに、子ども主体の楽しく充実した学びを実現していきたいと考えています。

詳細はこちら



岐阜県 土岐市

土岐市教育委員会 学校教育課
吉村 康介 氏



ロイロノートなどのICTを活用した授業が
あたりまえに。認定を受けたことで、
市内の取り組みの成果が実証され、
学校内外での信頼も高まりました。

土岐市では、「夢を持ち 人との絆の中で育ち合う 土岐市教育」を理念に、ICTを効果的に活用した授業改善を進めています。約40名のロイロ認定ティーチャーを中心に教員の学び合いが広がり、今ではICTを活用した授業があたりまえになりました。これからも子どもたちが活躍する時代を見据えて、より良い教育を目指していきます。

Q1 ICTを活用した授業改善のために、自治体として、どのような取り組み・研修を実施しましたか？

ICT活用の基礎研修だけでなく、ロイロノートの公開勉強会、ロイロ認定ティーチャー養成研修を開催しました。はじめは苦手意識を持っていた先生も、体験を通じてロイロノートの便利さや使いやすさを実感し、主体的に使うようになりました。ロイロ認定ティーチャー養成研修を通じて、これまでに約40名が認定を受けています。先生方の学び合いの輪が広がり、ICTを活用した授業改善が進んでいます。

Q2 認定自治体を目指していったことで、どのような変化がありましたか？

認定ティーチャーが増えるにつれて、ロイロノートがより積極的に使われるようになりました。子どもたちも学習ツールとして効果的に使いこなしています。教育委員会内でもロイロノートの有用性が一層認知されるようになりました。さらに、新聞等でも取り上げられ、市民の皆さまにもICTを活用した学習に関心を持っていただけました。

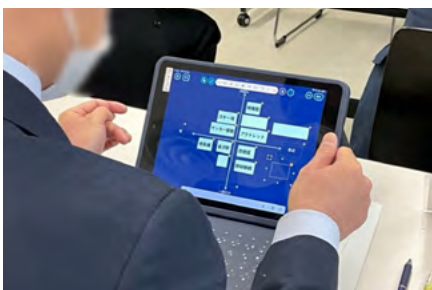
Q3 認定されて良かったことは？

認定を受けたことで、土岐市がICT（ロイロノート）を適切かつ効果的に運用できていることが確認できたことは、大変有益でした。また、認定に至るまでに、他の自治体のICT活用法を知る機会が得られたことも良かったと感じています。

Q4 今後、どのような教育を目指していきますか？

「デジタルとアナログ」「新しい教育と従来型の教育」のベストミックスを追求していきたいと考えています。ICTはあくまでも手段の一つであり、目的ではありません。子どもたちが活躍する未来に向けて、アナログの良さも生かしつつ、ICTを効果的に活用した教育を実施していきたいと考えています。

詳細はこちら



異なる立場で考えよう

単元

論理を捉えて

指導要領

[知識および技能] (2) ア
[思考力, 判断力, 表現力等] A (1) オ、(2) イ

授業者

土岐市立駄知中学校
福富 泰地 先生

| | |
|--|-------|
| 授業名：異なる立場から考える | |
| 学年：中学2年 | 教科：国語 |
| 単元：論理を捉えて | |
| 指導要領：〔知識および技能〕(2) ア 〔思考力, 判断力, 表現力等〕A (1) オ、(2) イ | |
| 授業者 (学校名)：福富泰地(土岐市立駄知中学校) | |

展開1

「異なる立場で考える」ことについて知ろう

同じ事実であっても、正反対の意見を支える根拠となることがあることを理解する。

毎日2時間も利用しているのなら、あらためて指導しなくても、自然と適切な利用方法が身につくはず。

毎日2時間も利用しているのに、適切な利用方法を学ばないで、問題を起これたり、巻き込まれたりする原因になる。

これ以上増やす必要はない！

もっと増やすべきだ！

- 既習事項を想起し、同じ事実であっても、正反対の意見を支える根拠となることを確認する

展開2

異なる立場で考える練習をしよう

バタフライチャートを用いて、一つの事実から想定される意見を考え整理する。

中学生にスマートフォンは必要か

- 取り上げた事実に対して、考えられる意見を全体交流を通して確認し、バタフライチャート上にまとめていく。

展開3

異なる立場で考えよう

共有ノート上に存在する、事実事実に作られたバタフライチャートに対して、想定される意見を記入する。

- 自分が考えやすい事実に対して、立場ごとに考えられる意見をカードに記入し位置付けていく。
- カードは資料箱に保存し、必要に応じて取り出す。

展開4

気づいたことをまとめよう

二つの異なる立場から考えることで、どんなことに気づいたか、ワークシートにまとめ、交流する。

- 気づいたことや活動に対しての感想を、簡条書きで記入する。
- 記入した内容を全体で交流する。

展開1 事実に対する意見の違いを知る

事実が一つであっても、立場によって意見が異なることを理解させる。
「全校生徒320人のインターネット利用時間は平均約2時間である。」という例を
取り上げ、これに対する正反対の意見とその根拠を確認させる。

毎日2時間も利用しているのなら、あらためて指導しなくても、自然と適切な利用方法が身につくはず。

これ以上増やす必要はない！

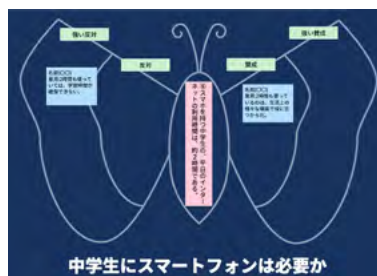
全校生徒320人のインターネット利用時間は平均約2時間である。

毎日2時間も利用しているのに、適切な利用方法を学ばないで、問題を起これたり、巻き込まれたりする原因になる。

もっと増やすべきだ！

展開2 異なる立場で意見を考える

「中学生にスマートフォンは必要か」など、身近な議題を取り上げる。生徒は、「賛成」「反対」両方の意見を考え、シンキングツールのバタフライチャートにまとめる。共有ノートで、クラス全体の意見を共有する。他の生徒が作成したバタフライチャートに、自分が考えた異なる意見を記入させる。



- 自分が考えやすい事実に対して、立場ごとに考えられる意見をカードに記入し位置付けていく。
- カードは資料箱に保存し、必要に応じて取り出す。

展開3 気づいたことをまとめる

「賛成」「反対」両方の立場から考えたことで気づいた点を、ワークシートにまとめさせる。
クラス全体でワークシートを共有し、そこから得られた新たな気づきを自分のワークシートに追記させる。

二つの異なる立場から考えることで、どんなことに気づいたのだろうか。気づいたことを書いてみよう。

仲間の意見を聞いて考えたこと

まとめ

共有ノート上でワークシートに書き込むことで、生徒は異なる立場の考えについて考えながら、自分の意見をまとめられます。ワークシートは、シンキングツールのバタフライチャートを使い、さまざまな意見を整理しやすくなりました。立場による意見の違いが明確になり、多くの気づきを得られます。

詳細を Web ページで見る



客観写生の俳句を詠もう

単元

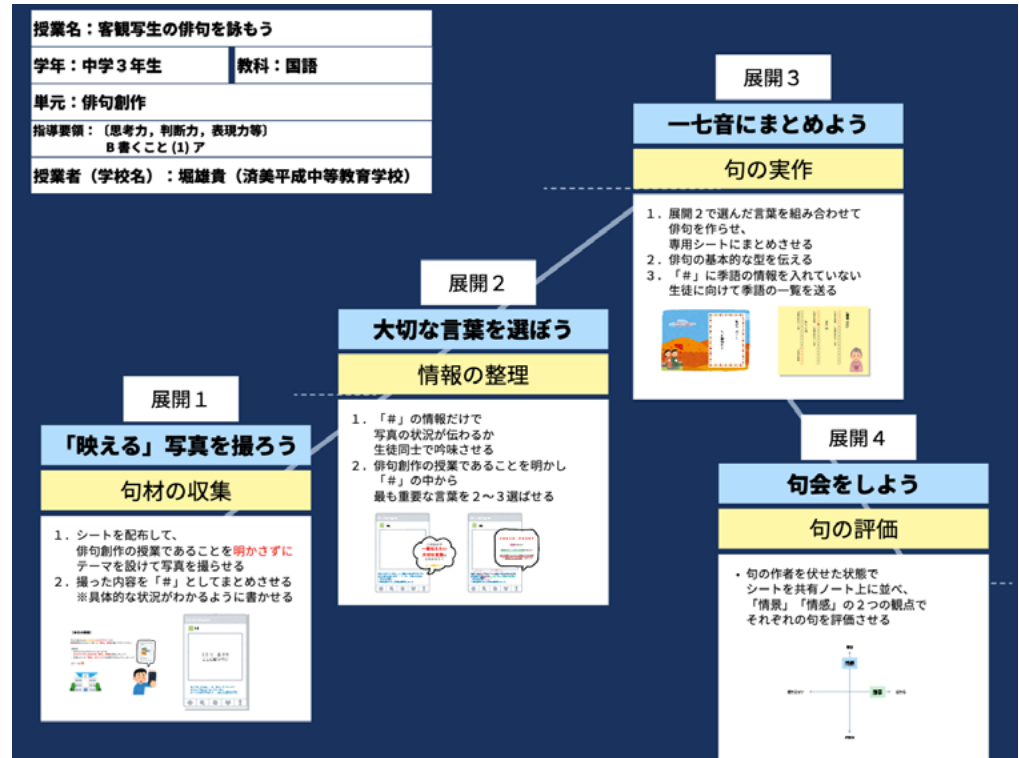
俳句創作

指導要領

[思考力, 判断力, 表現力等] B 書くこと (1) ア

授業者

済美平成中等教育学校
堀 雄貴 先生



展開1 「映える」写真を撮る

テーマと条件を設定し、生徒に「映える」写真を撮らせる。
 その際、俳句創作の授業であることは明かさない。
 撮影した写真について、具体的な状況が分かるよう、ハッシュタグを使って説明させる。



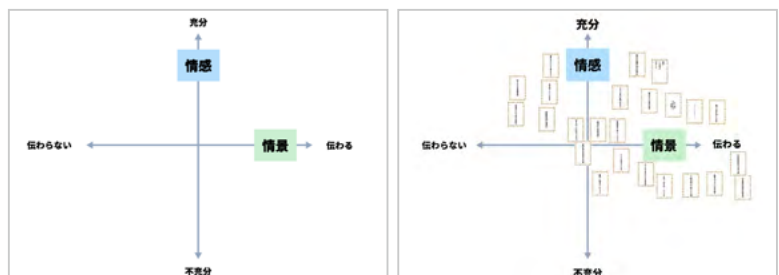
展開2 十七音にまとめる

俳句創作の授業であることを明かし、俳句の基本的な型や、季語の種類について説明する。
 生徒は、ハッシュタグの中から、重要な言葉を2〜3個選び、選んだ言葉を組み合わせて俳句を作成する。(ワークシートに記入する)



展開3 共有・相互評価をする

シンキングツールの座標軸に、生徒が作成した俳句をすべて並べる。(共有ノート)
 他の生徒が作成した俳句を2つの観点で評価させる。
 (「情景」が伝わるか、「情感」が充分であるか)



まとめ

写真やハッシュタグを用いて俳句を創作することで、生徒が楽しみながら取り組めるよう工夫しました。また、俳句に親しみのない先生にとっても、実作指導や評価が行いやすいようデザインしました。他の校種・学年でも応用できる活動内容かと思えます。夏休みの課題にも、ぜひご活用ください。

詳細を Web ページで見る



「速さ・時間・道のり」の問題を解こう

単元

方程式

指導要領

A 数と式 (3)

授業者

四国中央市立川之江南
中学校
内田 優花 先生

授業名：「速さ・時間・道のり」の問題を解こう

学年：中学校 1 年生 教科：数学

単元：方程式

指導要領：A 数と式 (3)

授業者（学校名）：内田優花（愛媛県四国中央市立川之江南中学校）

展開 1

本時の課題の提示

問題文から、本時の課題を理解する

- 学習のめあてを提示する。
- 問題文を読む。
- 内容を把握しやすいように紙芝居形式でも提示する。

展開 2

問題解決

配布されたカードの流れに沿って、解答を完成させる

- ②「方程式をつくる」では、ヒントカードを用意しておき、理解度に合わせてカードを選べるようにしておく。

展開 3

練習

完成したロイロノートを参考にして、練習問題を解く

- 完成したロイロノートのカードを参考にして練習問題を解く。
- 友達の解答も参考にできるように、提出箱の回答を共有しておく。

展開 4

本時のまとめ

本時の授業の感想を書き、提出する

- 授業の感想をカードに記載し、提出箱に提出する。
- 本時の内容が分かった人は薄い色のカードを、分からないところがあった人は濃い色のカードを選ぶ。

表にまとめると分かりやすかったです。

2の(6)の解き方を覚えてなかったのでもっと復習しておきたいです。

展開 1 課題を提示する

学習のめあてを提示する。
問題文を読ませ、さらに内容を把握できるように、紙芝居形式の説明も提示する。

学習のめあてを提示する

学習のめあて
「速さ・時間・道のり」の問題を解くには？

問題文を読む。

<問題>
2kmのコースを、うさぎと亀が競争しています。最初、うさぎが走り出している間に、亀が分速80mでスタートしました。10分後、うさぎが起きて、分速240mの全速力で走り出しました。うさぎは出発してから何分後に、亀に追いつけるでしょうか？

10分後、うさぎが起きて、分速240mの全速力で走り出しました。



展開 2 解決方法を考える

問題文の内容をもとに、各自で方程式を作る。
教員は、方程式を考えるためのヒントカードを用意しておき、理解度に合わせて生徒が選べるようにしておく。

表にまとめて考える (初級)

うさぎが寝ていた時間

| (速さ) × (時間) | うさぎ | 亀 |
|-------------|-----|--|
| 速さ (m/min) | 240 | 80 |
| 進んだ時間 (分) | x | x + |
| 進んだ道のり (m) | | |

展開 3 問題演習・まとめを行う

展開 2 で作成したカードを手がかりに練習問題を解き、提出箱に提出させる。他の生徒の回答も参考にできるように、提出箱の回答を共有しておく。
授業の感想をカードに記載し、提出箱に提出させる。本時の内容が理解できた生徒は薄い色のカード、分からないところがあった生徒は濃い色のカードを選ぶ。

表にまとめて考える

| うさぎ | 亀 | |
|------------|--------|--------------|
| 速さ (m/min) | 240 | 80 |
| 進んだ時間 (分) | x | x + 10 |
| 進んだ道のり (m) | $240x$ | $80(x + 10)$ |

$240x = 80(x + 10)$
 $240x = 80x + 800$
 $240x - 80x = 800$
 $160x = 800$
 $x = 5$

表にまとめると分かりやすかったです。

2の(6)の解き方を覚えてなかったのでもっと復習しておきたいです。

まとめ

方程式を使う単元は、苦手意識を持つ生徒も多いため、視覚化することで分かりやすくしました。本時を含めた方程式の授業すべてで、同じ形式のカードを使用し、解き方の手順を覚えられるようにしました。ヒントカードを用意することで、それぞれのレベルに合わせて、自力で解決できる力をつけられるよう工夫しました。

詳細を Web ページで見る



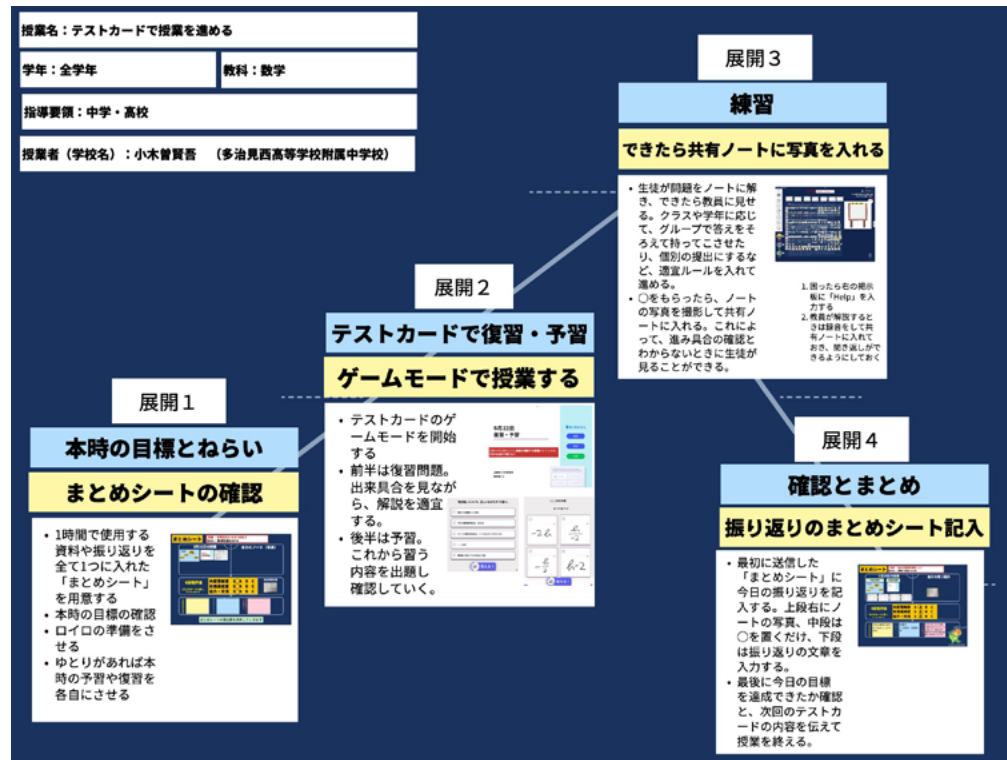
テストカードと共有ノートで授業を進めよう

単元

該当なし
(学年・単元に捉われない内容)

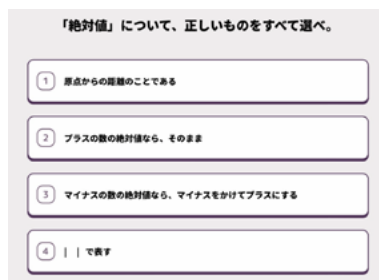
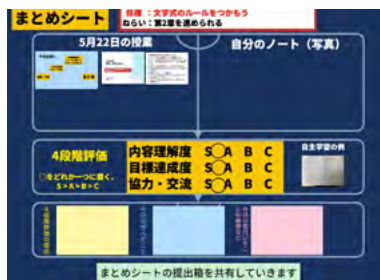
授業者

多治見西高等学校附属
中学校
小木曾 賢吾 先生



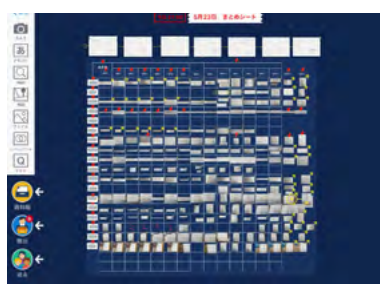
展開1 テストカードで予習・復習を行う

シンキングツールの情報分析チャートに、本時の資料・授業の流れ・振り返りカードをすべて入れ、「まとめシート」として配布する。
テストカード(ゲームモード)で、前時の復習と、本時の予習内容を確認する。必要に応じて、板書で示しながら、本時のめあてを説明する。



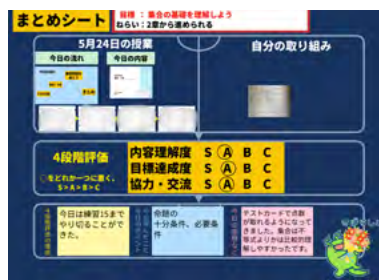
展開2 共有ノートで問題演習を行う

個人またはグループで、本時の課題を紙のノートで解かせる。課題ができたら提出させ、添削する。生徒は、添削後の課題を写真に撮り、共有ノートに並べる。こうすることで、各自の進み具合が把握できるだけでなく、困っている生徒は、丸をもらった生徒のノートを参考にできる。



展開3 振り返り・まとめを行う

はじめに配布した「まとめシート」で授業の振り返りをさせる。「自分の取り組み」の項目には、ノートの写真を入れさせる。4段階評価は、S~Cのいずれかに丸をつけ、自己評価させる。最後に、振り返りカードを記入・提出させる。
教員は本時の内容の確認と、次回の予告を行う。



まとめ

テストカードで復習・予習を行うことで、一人ひとりの理解度を確認した上で、授業を進めることができます。
また、共有ノートを効果的に活用することで、各自の学習が「見える化」され、個別最適な学びと協働的な学びを両立した授業が実現できます。

詳細を Web ページで見る



慣性の法則を体験してみよう

単元

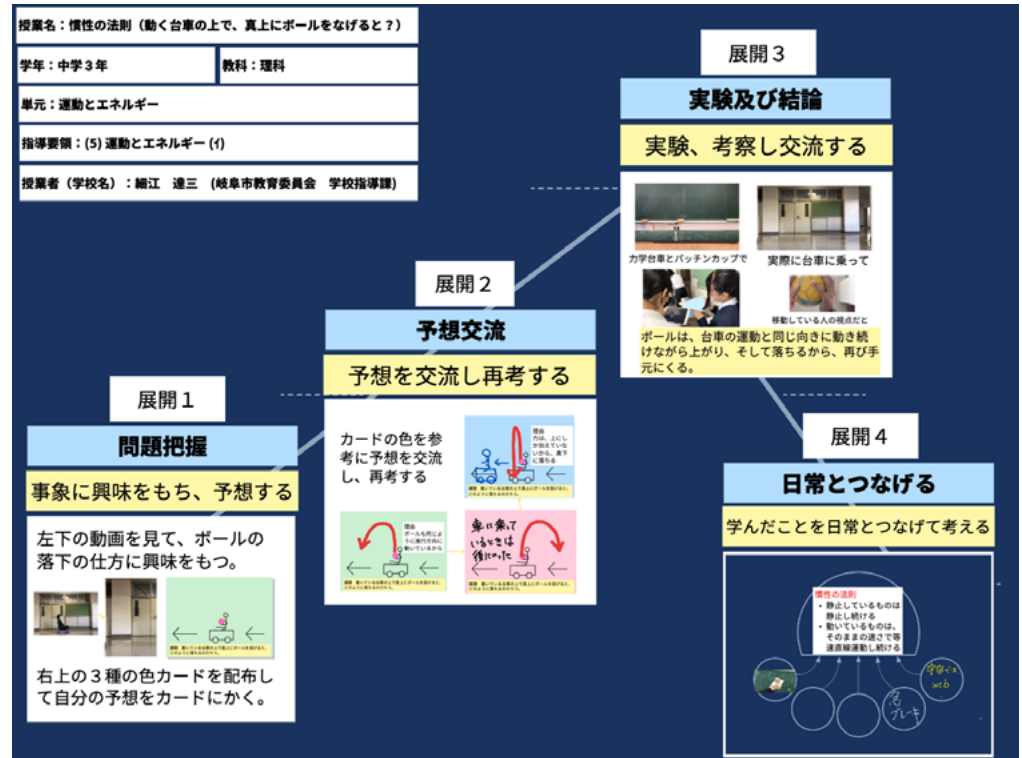
運動とエネルギー

指導要領

(5) 運動とエネルギー
(1)

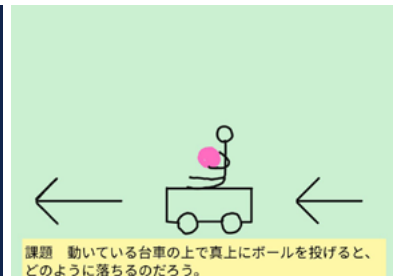
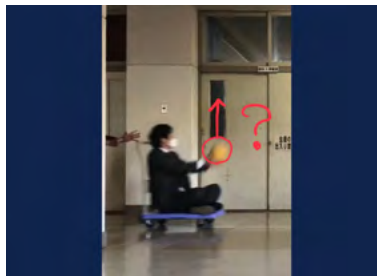
授業者

岐阜市教育委員会
学校指導課
細江 達三 先生



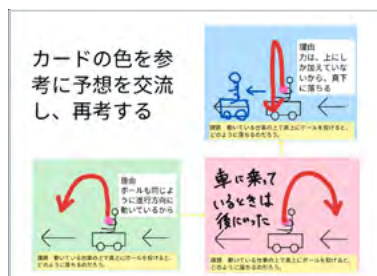
展開1 問題を把握する

静止した台車の上で、真上にボールを投げる動画を見せ、ボールの落ち方を観察させる。台車を動かしながらボールを投げた場合、軌道がどうなるのか予想させる。生徒は、3色のカードから1つ選び、根拠を記入・提出する。（前に落ちる：グリーン、その場に落ちる：ブルー、後ろに落ちる：ピンク）



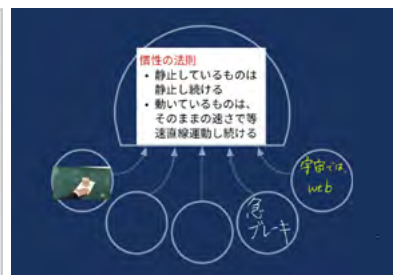
展開2 予想を共有・再考する

提出箱で回答を共有する。生徒は、他の生徒の回答を参考にしながら、再度考える。その後、自らの経験や力の向きを根拠に予想を立てている生徒を指名し、発表させる。



展開3 実験・結論・考察

生徒は、実際に台車に乗ってボールを投げ、真横から撮影してボールの軌道を確認する。次に、力学台車とパッチンカップを用いて、同様に撮影を行い、確認する。力の向きとボールの動きを関連付け、考察を深める。さらに、日常の中で見られる「慣性」を調べ、まとめる。



まとめ

生徒が興味関心を持てるような事象を取り上げました。カードに予想を記入させ、さらに全員のカードを共有することで、生徒は事象の根拠をより深く考えることができます。また、ロイロノートでボールの動きを撮影することで、何度も確認ができ、より深い考察につながられました。

詳細を Web ページで見る



細胞分裂の過程を観察しよう

単元

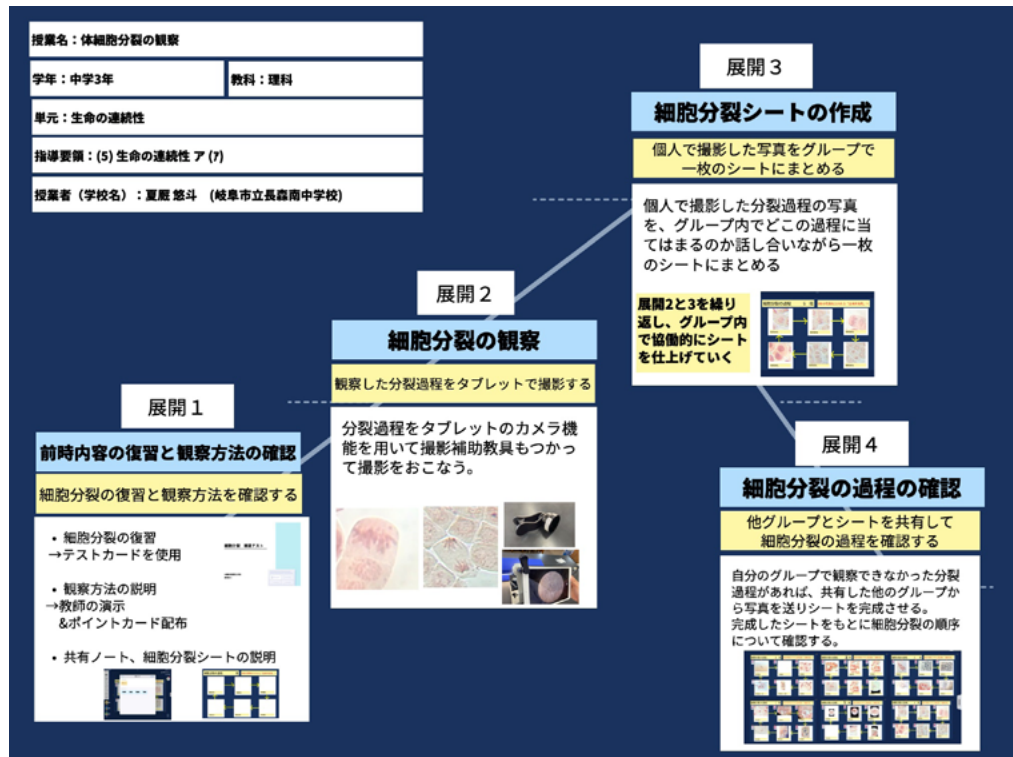
生命の連続性

指導要領

(5) 生命の連続性
ア(7)

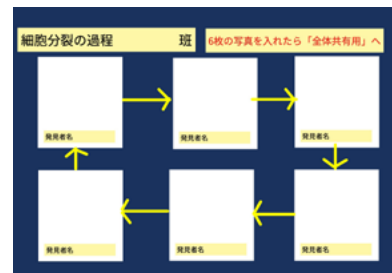
授業者

岐阜市立長森南中学校
夏厩 悠斗 先生



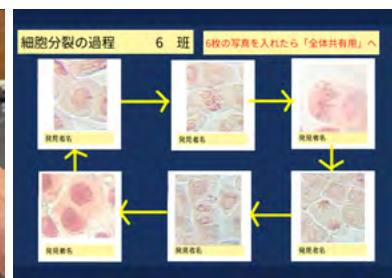
展開1 観察方法を確認する

テストカードを使い、細胞分裂の順序について復習する。
 教員は、顕微鏡の使い方やプレパラートの作り方などを演示し、観察時のポイントを記載したカードを配布する。
 最後に、共有ノート上にあるワークシートについて説明する。



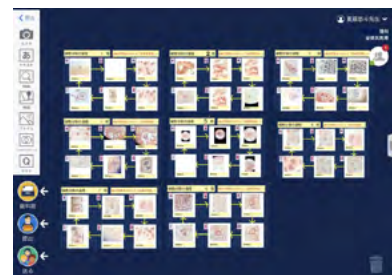
展開2 観察し、結果を記録する

グループに分かれ、分裂過程の細胞をタブレットで撮影させる。撮影した写真は、ワークシートに貼り付ける。グループで協力し、話し合いながら、ワークシートを完成させる。



展開3 他のグループと結果を共有する

各グループで作成したワークシートを、クラスの共有ノートに提出させる。観察できなかった分裂過程があれば、他のグループから写真をもらって、ワークシートを仕上げさせる。完成したワークシートをもとに、細胞分裂の順序を確認させる。



まとめ

個人作業になりがちな観察実験も、共有ノートを用いることで、協働的に行うことができます。さらに、各グループが作成したワークシートをクラス全体で共有することで、「細胞分裂の順序性」への理解を深めることができます。

詳細を Web ページで見る



「松山がなくなる日」を食い止める方法を考えよう

単元

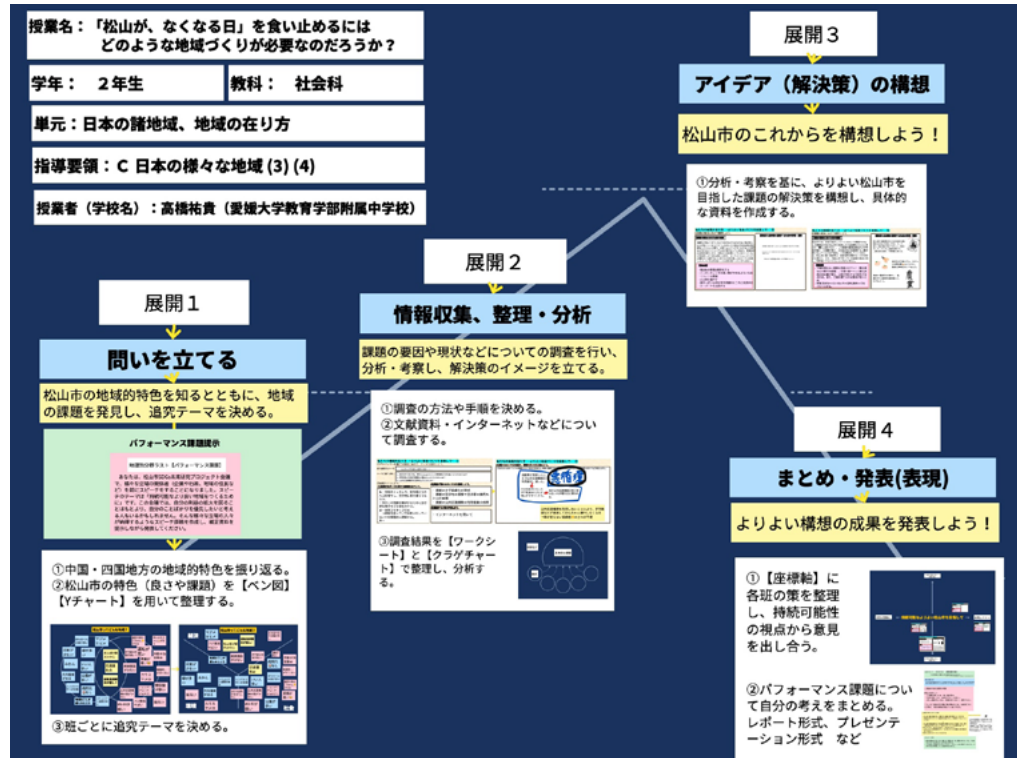
日本の諸地域、
地域の在り方

指導要領

C 日本のさまざまな地域
(3) (4)

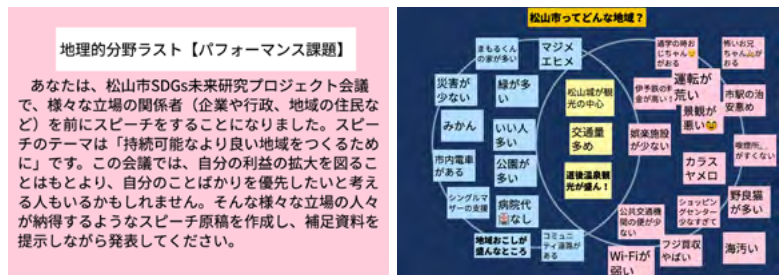
授業者

愛媛大学教育学部附属
中学校
高橋 祐貴 先生



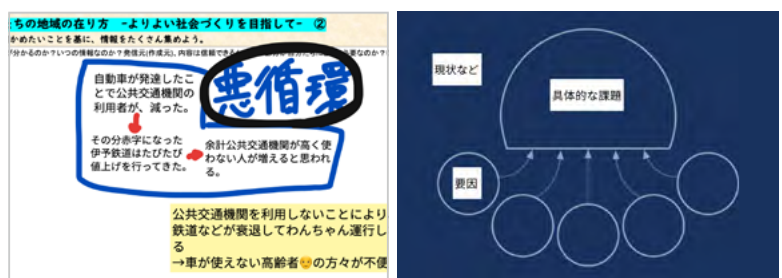
展開1 問いを立てる

グループに分かれ、松山市の特色（良さや課題）を整理、テーマを決めさせる。（少子高齢化を解決するなど）特色の整理には、シンキングツールのベン図・Yチャートを用いる。



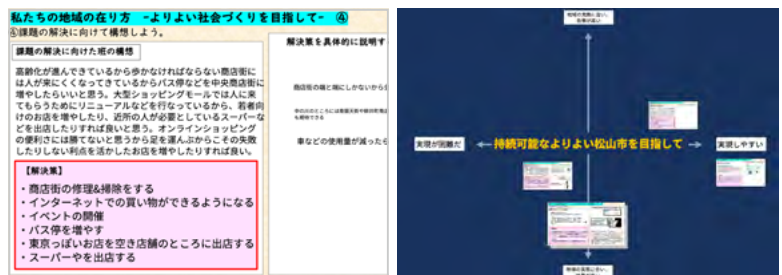
展開2 情報収集・整理・分析をする

設定したテーマについて、調査方法・手順を決めさせる。調査には、文献資料だけでなく、Web検索も活用させる。調査した内容はワークシートと、シンキングツールのくらげチャートを使って、整理・分析させる。



展開3 解決策を構築し、まとめる

分析・考察をもとに、松山市をより良くするための具体策を考え、資料にまとめさせる。シンキングツールの座標軸を使って、各グループのアイデアを整理し、持続可能性などの視点から意見を出し合う。最後に、各自が選択した形式でまとめさせる。（レポート・プレゼンテーションなど）



まとめ

地域の課題をさまざまな視点から考えられるよう、シンキングツールを活用しました。また、プロジェクト学習として単元を構成することで、生徒がゴールを明確にイメージし、主体的に活動が進められるよう工夫しました。

詳細を Web ページで見る



トピックランキングをもとに、プレゼンテーションしよう

単元

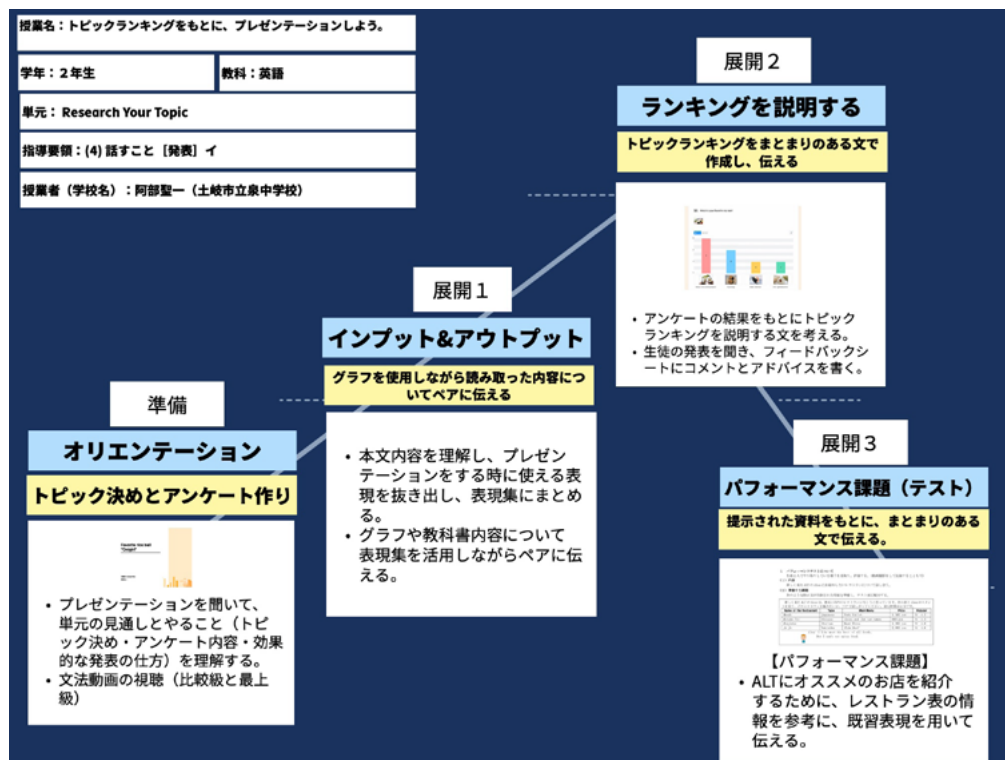
Research Your Topic

指導要領

(4) 話すこと[発表] イ

授業者

土岐市立泉中学校
阿部 聖一 先生



展開1 語彙・文法の確認、リテリングをする

単元の流れと学習内容を説明する。

また、この単元で用いる文法事項 (比較級・最上級) の確認を行う。

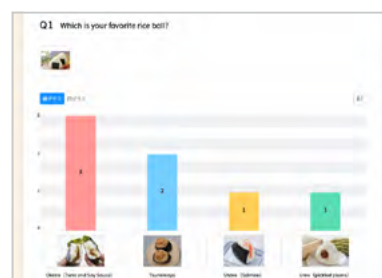
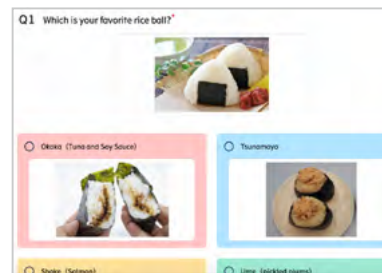
本文内容を理解した後で、生徒自身が英語でプレゼンテーションを行う際に使える表現を表現集にまとめさせる。教科書本文中のグラフや、教科書の内容について表現集を活用しながらペアの相手に伝える。

展開2 アンケート結果の説明を考える

クラスの生徒に実施したアンケート結果をもとに、ランキング発表するための英文を考えさせる。考えた内容をクラス全体に発表させる。互いの発表を聞いた感想やアドバイスをフィードバックシートにまとめ、共有させる。

展開3 パフォーマンス課題によるテストを行う

「ALTの先生にオススメのお店を紹介する」という課題にペアで取り組ませる。これまで習った内容を使って説明を作成し、2分以内に説明させる。



1 パフォーマンステストについて
生徒2人でやり取りしている様子を見取り、評価する。(動画撮影をして記録することも可)

(1) 内容
新しく来たALTのAlexにお勧めしたいレストランについて話し合う。

(2) 準備する課題
次のような指示文が印刷された用紙を準備し、テスト前に配付する。

新しく来たALTのAlexは、週末に市内のレストランに行こうと思っています。次の表とAlexのコメントを見て、どのレストランを勧めたいか、ペアで話し合ってください。読む時間は2分です。

| Name of the Restaurant | Type | Main Menu | Price | Popular |
|------------------------|-----------|-------------------------|-----------|---------|
| Mizuki | Japanese | Pork Cut Let | 1,500 yen | ☆ 4.2 |
| Koraku Tei | Chinese | Gyoza and Tan Tan ramen | 800 yen | ☆ 4.3 |
| Bun Buns | Italian | Meat Pizza | 1,200 yen | ☆ 4.8 |
| Ju Ju | Yakihitsu | Birds Beef | 2,300 yen | ☆ 4.6 |

Alex: I like meat the best of all foods.
But I can't eat spicy food.

まとめ

単元を4分割し、それぞれにつながりを持たせることで生徒が取り組みやすい内容となるよう工夫しました。自分が知りたいランキングを作るためにアンケートを実施し、その結果をもとにプレゼンテーションをする展開にしたことで、生徒が取り組みやすい内容になっていると思います。

詳細を Web ページで見る



「夢の旅行」を企画しよう

単元

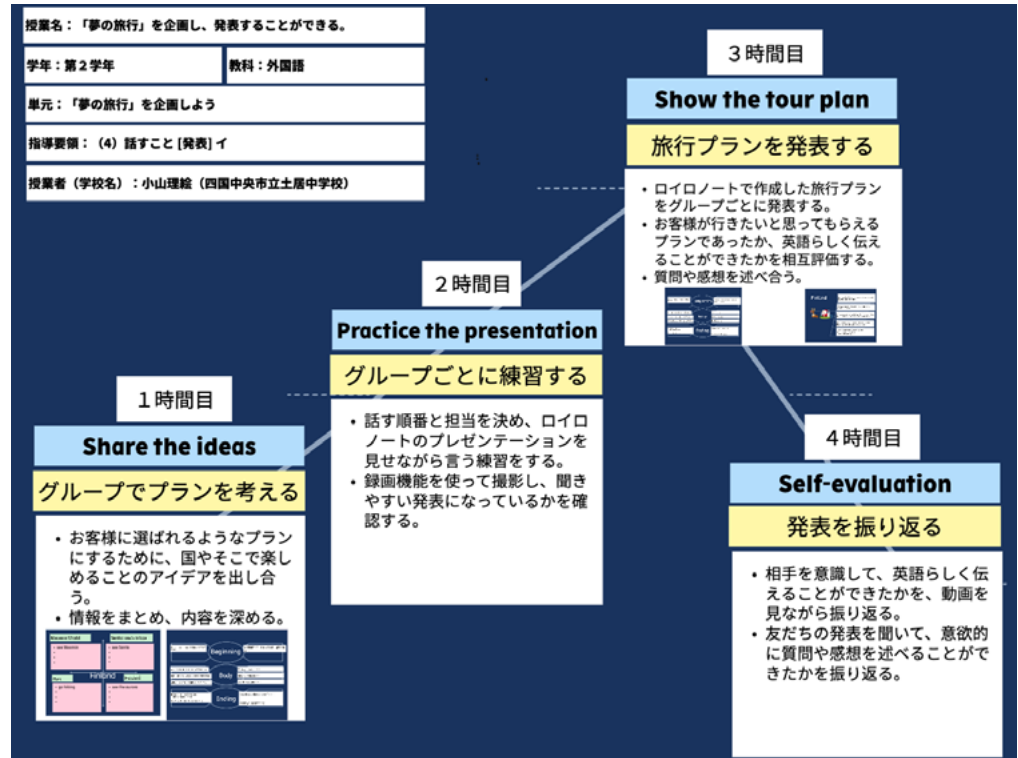
「夢の旅行」を企画しよう

指導要領

(4) 話すこと[発表]イ

授業者

四国中央市立土居中学校
小山 理絵 先生



展開1 アイディアを出し合う

グループで行きたい国を決め、「夢の旅行」をテーマにプレゼン準備をさせる。シンキングツールの座標軸を使い、その国で楽しめることをまとめる。アイデアをプレゼンの構成に組み込むため、シンキングツールのキャンディチャートを使って整理する。内容を深め、プレゼンスライドを完成させる。



展開2 グループごとに練習する

話す順番と担当を決め、ロイロノートのプレゼンスライドを見せながら、発表練習を行う。録画機能を使って撮影し、聞きやすい発表になっているかをグループ内で確認し合う。

展開3 旅行プランの発表・振り返りを行う

グループごとに旅行プランを発表する。聞いている人が行きたいと思えるプランであったか、英語の表現を活かして伝えられていたかを相互評価し、質問や感想を伝え合う。最後に自己評価を行い、相手を意識した英語での発表ができたか、他の生徒の発表に対して、意欲的に質問や感想を述べられたかを振り返る。



まとめ

グループで活動を行うことで、協働的な学びが生まれるよう工夫しました。調べた情報や作った英文をカードにまとめて共有することで、グループ内での意見交流が活発になり、プレゼン準備をスムーズに行うことができました。

詳細を Web ページで見る



情景描写・行動描写を用いて、自分の体験を表現しよう

単元

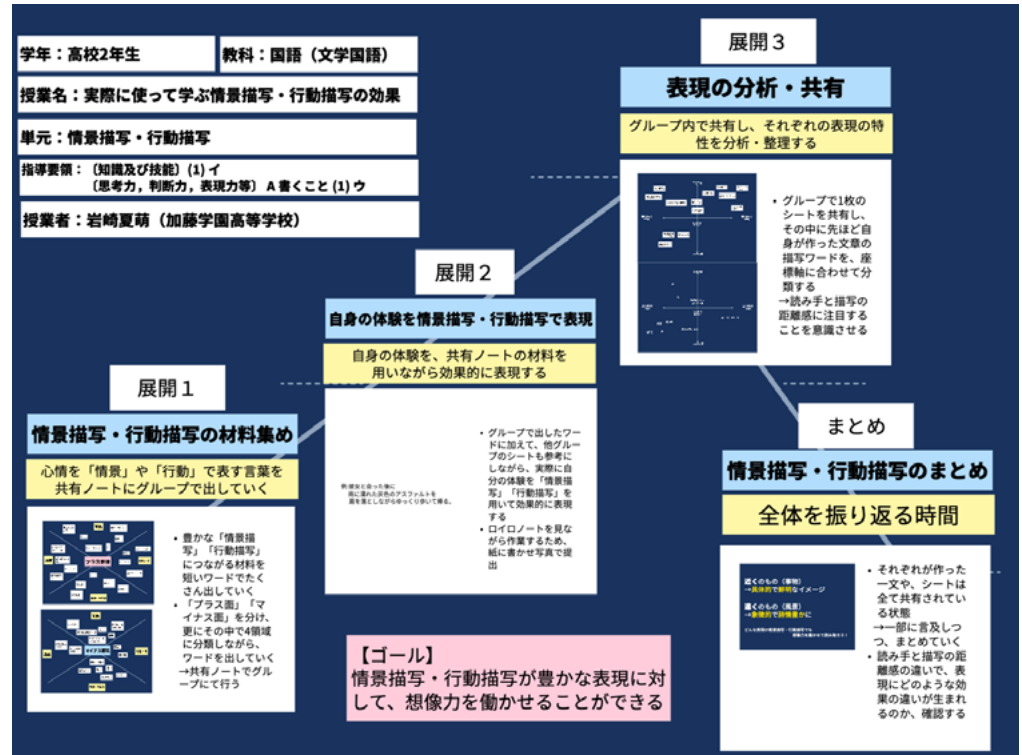
情景描写・行動描写

指導要領

[知識及び技能] (1) イ
[思考力, 判断力, 表現力等]
A 書くこと (1) ウ

授業者

加藤学園高等学校
岩崎 夏萌 先生



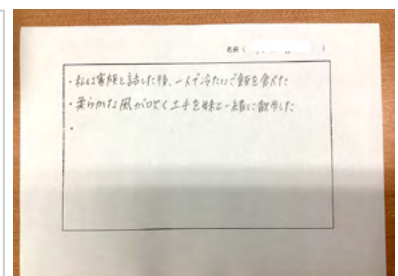
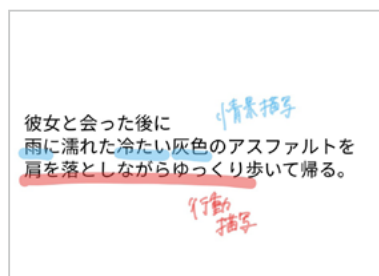
展開1 情景描写・行動描写の材料を書き出す

生徒はグループに分かれ、「心情を情景や行動で表す表現」を短いフレーズでたくさん出していく。(共有ノート) シンキングツールのXチャートを使って、「プラス表現」「マイナス表現」に分け、さらに4領域(温度・天候・明暗/色・五感)に分類しながら、書き出していく。



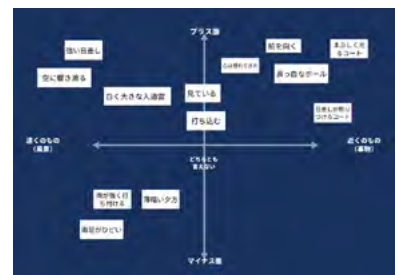
展開2 自分の体験を文章で表現する

自分の体験を、「情景描写」「行動描写」を用いて、文章で表現する。その際、自分のグループや他のグループのアイデアも参考に。作成した文章は、紙のワークシートに書かせ、ロイロノートで撮影、提出箱に提出させる。



展開3 表現を分析・共有する

グループで1枚の座標軸を共有し、自分が作った文章の表現を分類する。その際、読み手と描写の距離感に注目させる。



まとめ

情景描写・行動描写を用いて、自分の体験を文章にすることで、表現の効果を多角的に理解することができます。さらに、「距離感」を意識することで、どのような違いが生まれるかを体感させることをねらいとしました。

詳細を Web ページで見る



気になるデータの相関係数を調べてみよう

単元

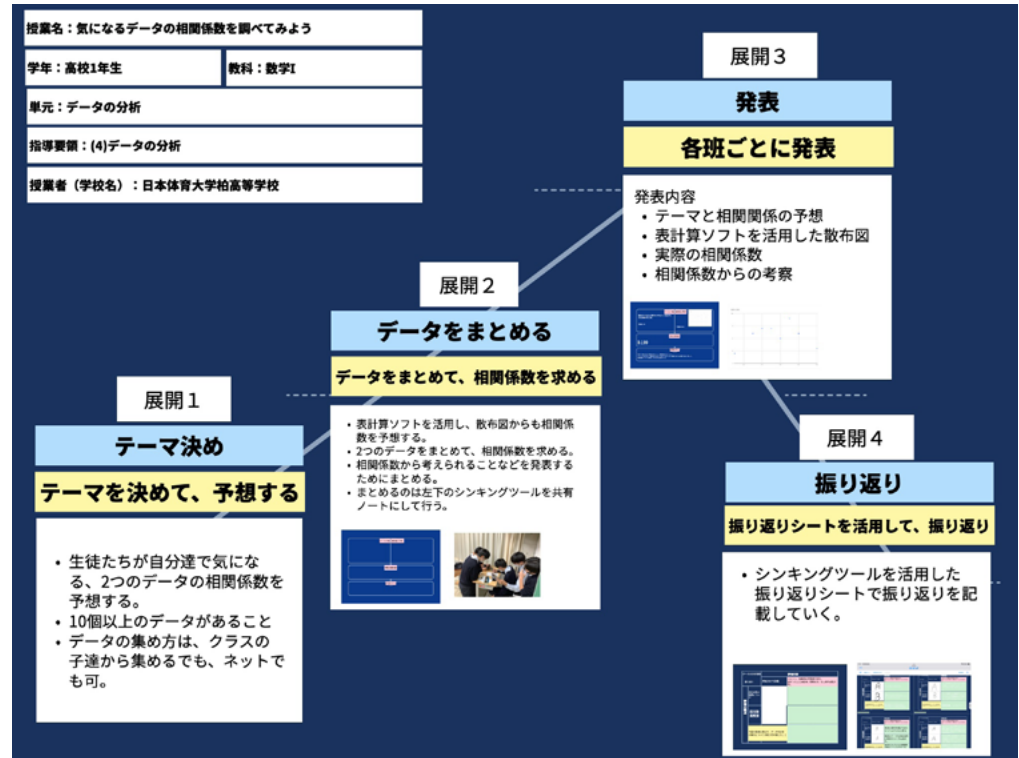
データの分析

指導要領

(4)データの分析

授業者

日本体育大学柏高等学校
中村 亮介 先生



展開1 テーマを決めて話し合う

生徒は自分たちでテーマを決め、相関がありそうな2種類のデータを集める。
(条件: サンプル数10以上)

散布図を作成し、相関係数を予想した後、実際に相関係数を求める。
求めた相関係数から考えられることを、グループごとにシンキングツールの情報分析チャートにまとめる。

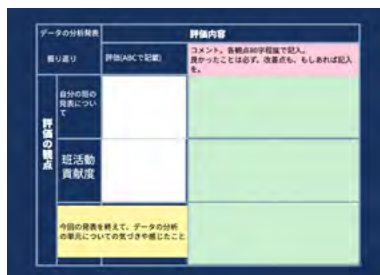
展開2 まとめた内容を発表する

グループごとにまとめた内容を発表する。
発表内容には、次の4点を含めることとする: 「テーマ、相関関係の予想」「作成した散布図」「実際の相関係数」「相関係数からわかったこと」



展開3 振り返りを行う

シンキングツールのデータチャートを使って、本時の振り返りをまとめる。活動内容とグループへの貢献度を自己評価させることで、協働学習に必要なスキルの向上もはかることができる。振り返りシートは提出箱に提出させ、評価にも活用する。



まとめ

データ分析を知識として学ぶのではなく、生徒が興味のあるテーマで学ぶことで、数学の実用性を実感できることを、この授業案のねらいとしました。

詳細を Web ページで見る



反発って？どう表す？尺度は？

単元

運動量の保存

指導要領

- (1) さまざまな運動
- (イ) 運動量

授業者

日本体育大学柏高等学校
熊井 允人 先生

授業名：反発って？どう表す？尺度は？

学年：高校2年生 教科：理科(物理)

単元：運動量の保存(反発・反発の測定)

指導要領：(1) 様々な運動 (イ) 運動量

授業者(学校名)：熊井允人(日本体育大学柏高等学校)

展開1 反発とはどのような条件で示せるのか考える。

自分の考えを提出し提出箱の他の意見を吟味しカテゴライズ

「指導上の注意点」前週学んだ衝突、運動量、力の考え方を活用して日常生活において反発の例を自ら発見し発表する。その際、自分の意見を共有ノートでも共有し、その物理量に依存しているグループで議論を深める。またまとめた意見を代表が発表する。最大のポイントが自分自身ならず知識を活用してアウトプットすることで能動的な活動を促す。

展開2 全体発表共有+知識伝達

GWでの意見を代表が解説する

GWでの意見を代表が解説、その後教師がそれぞれの説についてコメントと概念の共有※ここで教科書使用!!

展開3 測定実験

各グループごとに実験をおこなう

各班でそれぞれ測定する場所を変えて次のボールの反発係と空気圧を測定し、結果を共有ノートへデータを記入

展開4 結果を相関図。その後、全体で発散型の考察

各班の測定結果を座標軸へプロットし相関図を作成、その後相関図や測定結果をもとに考察を提出箱へ

「指導上の注意点」右の図を作成する時はあえて教室に戻った状態で共有ノート上で作成させる。ここで気づきはオープンな会話で議論を深めさせる。ここでどれだけ気づけたか、また予想と違ったのか吟味させることができる。予想→実験→考察をインスタントに行うことも可能なため活発的な話しづくり必須。

展開5 まとめ+振り返り

本時の学びと振り返りとともに教科書に書かれている公式では反発係数自体は測定できるが反発を理解する上で足りない条件を上げるとしたらなにが考える。

「指導上の注意点」生徒の振り返りを重視したいので事前に学んだ内容の資料は教員が作成したデータを送信して時短する。とにかくここでは自分の本時の導入で自身が考えた予想と測定の結果で得た知識は何が確認する。

展開6 問題演習

自分自身が解ける問題を演習して提出箱へ

授業を運営する上で大切にしていること

生徒が持っている知識から創造し答えを導こうとする姿勢を大切に、概念や理論など本質をいかに理解するかを意識させています。また公式は徹底して導き出せるということを伝え続けています。

物理の知識や技能を習得することはもちろんですが、科で生きていく上で必要となる考え方も授業を通じて身に付けてほしいと考えています。

展開1 反発の度合いの表し方を話し合う

反発の度合いを表すために、どのような物理量を用いるべきか、各自で考えをまとめて、提出させる。グループで意見をまとめ、論理的な発言を意識して、全体に発表させる。教員は、生徒のアイデアを取り上げながら、簡単な解説を行い、本時で行う実験の手順を説明する。

解読不可能 復元力 受け手が別の力なる

復元力 反対で同じ大きさ 反発する力

展開2 測定実験を行う

生徒は、学内の好きな場所で測定実験を行う。測定値は、その場で共有ノート内のワークシートに記入する。データをリアルタイムで共有することで、他のグループの進捗状況や実験内容を把握させることができる。

| A班 | 他の班のグラフ | | | | | |
|-------|---------|--------|----------|--------|--------|----------|
| | バレーボール | ゴルフボール | バスケットボール | バレーボール | ゴルフボール | バスケットボール |
| 1回目 | 0.82 | 0.86 | 0.883 | 0.6 B | 0.873 | 0.894 |
| 2回目 | 0.81 | 0.851 | 0.877 | 0.83 | 0.872 | 0.893 |
| 3回目 | 0.82 | 0.857 | 0.877 | 0.842 | 0.853 | 0.895 |
| 平均値 | 0.82 | 0.856 | 0.879 | 0.895 | | |
| 空気圧 | 50 | 94 | 76 | | | |
| 授業 平均 | | | | | | |

展開3 データのマッピング・まとめを行う

シンキングツールの座標軸を使い、測定した結果をマッピングさせる。(引き続き、共有ノートを使用) それをもとに、クラス全体で気づいたことを共有し、測定条件の違いによる結果の相違について、考察を深めさせる。さらに、振り返りシートを用いて、授業で学んだことをまとめさせる。

反発係数

空気圧

※データ抜粋

まとめ

ロイロノートを用いることで、生徒が思考する機会を増やすことができます。また、実験手順の確認もスムーズに行えるため、実験からワークシートの記入、考察までを短い時間で行うことができます。

詳細をWebページで見る



地質時代の動物と環境との関連性を考えよう

単元

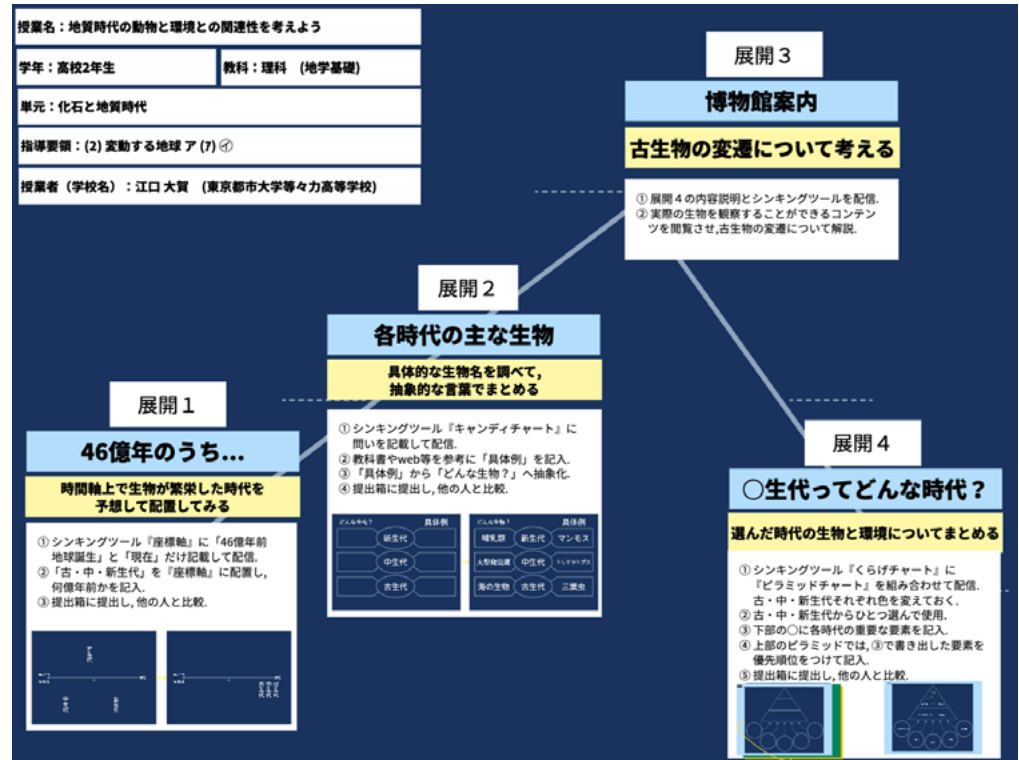
化石と地質時代

指導要領

(2) 変動する地球
ア(7)①

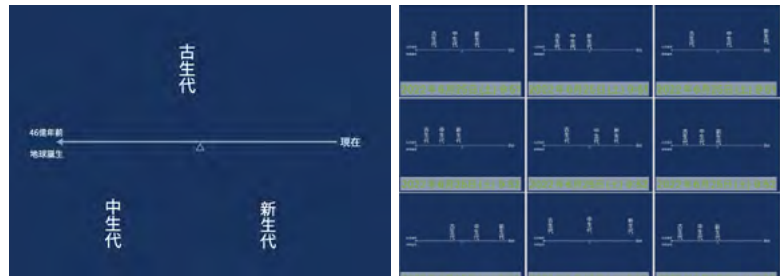
授業者

東京都市大学等々力
高等学校
江口 大賀 先生



展開1 座標軸に時代を配置する

シンキングツールの座標軸に「46億年前地球誕生」と「現在」を記入し、生徒に配布する。
 生徒は、座標軸に「古生代」「中生代」「新生代」とそれぞれが何億年前かを記入する。記入後、カードを提出箱に提出し、他の生徒の回答と比較する。



展開2 各時代の生物の具体例をまとめる

シンキングツールのキャンディチャートに、各時代の生物の特徴・具体例を書かせ、イメージを捉えさせる。教科書やWebページを参考にまとめさせる。まとめた内容は、提出箱に提出し、他の生徒と比較させる。



展開3 生物と環境についてまとめる

教員は、実際の生物を観察することができるコンテンツを閲覧させ、古生物の変遷について解説する。
 生徒は、古生代・中生代・新生代から1つ選び、各時代の重要な要素を考え、シンキングツールのくらげチャートを使ってまとめる。



まとめ

オンライン授業をきっかけに考えた授業案です。密なコミュニケーションが難しい状況でも、互いの考えを共有することで、思考をつなげられるよう工夫しました。また、生徒が飽きずに授業に取り組めるよう、映像配信の時間を設けました。

詳細をWebページで見る



パーム油を通して、生産と消費の課題を考えよう

単元

農業、環境問題

指導要領

B グローバル化する国際社会の諸課題 (2)

授業者

済美平成中等教育学校
三好 景子 先生

授業名：良い生産、良い消費ってなんだろう～パーム油を通して考える

学年：高校1年 教科：地理A、地理総合

単元：農業、環境問題

指導要領：B グローバル化する国際社会の諸課題 (2)

授業者 (学校名)：三好景子 (済美平成中等教育学校)

展開1

パーム油の生産・消費の課題を知ろう

座標軸で整理

①パーム油の生産・消費の課題をウェビングで発散
⇒座標軸に整理する
観点「自然・経済・社会・政治」の四つ

②ロールプレイ
政府、業者、労働者、日本の消費者などに別れ、新しく造るプランテーションを開発するか話し合う
⇒会議を通じて見えてきた課題 (民主的な話し合いか？ 代表がない立場はないか？ など) を通じてさらに座標軸の中身を増やしていく

展開2

問題の構造を知ろう

生産・消費の過程で起こることを図式化する

③パーム油生産・消費に関わる諸問題を、つながりを意識しながら図式化する
⇒問題同士の繋がりが、ある主体にとってのメリットが他の主体に害を与えるトレードオフの関係に基づく
⇒図式化→主題を限定し、それぞれの繋がりを考える (「生物にとって」「企業にとって」) や、課題同士の繋がりを整理した図式を作る

8年キャンディチャートを用いて、それぞれの主体によって、「このままパーム油の生産・消費が続く」場合に起こること、「パーム油の生産・消費をやめた」場合に起こることについて考えを整理する

展開3

どこにどう手を入れるか考えよう

生産・消費構造を改善する方法を考えよう

④課題2を踏まえて、「どこに、どう」手を入れるかを考え、情報分析チャートにまとめる
・第一目標として、課題のネットワーク図の「このまま継続を続けたい課題の理由」が、手に入らなければ解決しない問題を、「解決して欲しい問題」の一角にだけ取り出し、第一目標を踏まえて、特に「自分が解決したい課題」を選び、誰に手を入れるか考える。「どこに、どのように手を入れるか」情報分析チャートで整理する。
⇒高度な解決策だけでなく、課題の繋がりを意識した高度なアイデアを考える。

展開4

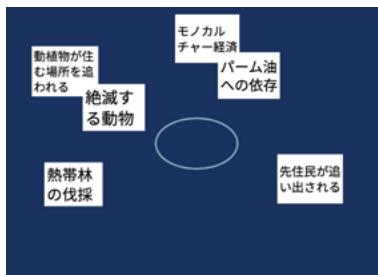
改善案・意見の発表会

他の人の考えを知る

⑤展開2、3を踏まえ、グループで発表会を行い、意見交換を行う
・その行動や変化から生まれる可能性のある新たな課題についても議論する
・友人の意見も踏まえて、自分たちができることを座標軸にまとめる

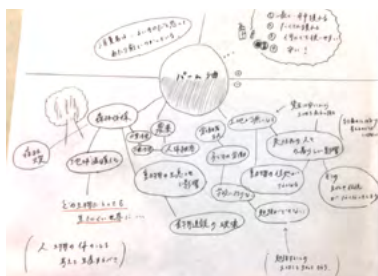
展開1 パーム油の生産・消費の課題を知る

シンキングツールのウェビングを使って、パーム油の生産・消費における課題を書き出し、座標軸で整理させる。さらに、グループに分かれ、油ヤシプランテーションを新たに開発するか話し合う。生徒それぞれが異なる立場 (政府・業者・労働者・日本の消費者) に立って、ロールプレイ形式で議論を進める。



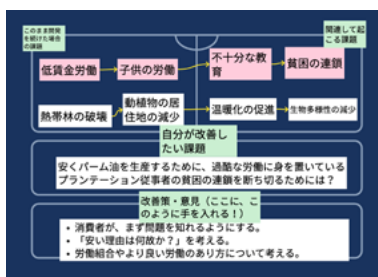
展開2 課題の構造を知る

課題同士のつながりを意識しながら、パーム油の生産・消費に関わる諸問題を図式化させる。パーム油の生産・消費を続ける場合・やめる場合に起きることについて考え、シンキングツールのキャンディチャートを用いて整理させる。



展開3 課題の改善策・解決策を考える

各生徒は、考えた内容をもとに、課題の改善策・解決策を考え、シンキングツールの情報分析チャートにまとめる。さらに、グループで意見交換を行い、考えを深める。共有した意見をもとに、自分ができることをシンキングツールの座標軸にまとめ、改善策・解決策を具体化する。



まとめ

仕組みや出来事、課題同士のつながりを図式化することで、多面的に物事を捉えることができます。課題の改善策・解決策を具体的に考えるプロセスを経ることで、より深い学びを得ることができるよう、工夫しました。

詳細を Web ページで見る



地形の特徴を理解し、自然災害に備えよう

単元

自然環境と防災

指導要領

C 持続可能な地域づくりと私たち(1)

授業者

済美平成中等教育学校
倉本 京子 先生

授業名：自然災害に備える～防災・減災対策を考える～

学年：高校1年生 教科：地理歴史科 地理総合

単元：自然環境と防災

指導要領：C 持続可能な地域づくりと私たち(1)


授業者(学校名)：倉本京子(済美平成中等教育学校)

展開1

日本の自然環境

日本の自然環境を理解する

- 3月の研修旅行(東北・東京)事前学習である冬課題利用。
- 日本の地形・気候の特徴から起こりうる災害を理解させる。



展開2

災害と被害

各災害と被害を理解する


- 自分の家周辺で起こりうる災害を地形分類から予想させ、確認させた後に、風水害・火山災害・地震津波災害の実態・被害を理解させる。
- 災害想定動画を視聴し危機感を抱かせる。

展開3

防災・減災対策

ハザードマップと「マイ・タイムライン」を作成する

- 洪水・津波・土砂災害の被害想定を重ねて自作のハザードマップを作成させる。想定被害状況を理解した上で、どのタイミングで避難・対策するかを決めて自治体別の「マイ・タイムライン」を作成させる。




展開4

家族と共有・確認

完成したハザードマップと「マイ・タイムライン」を家族と共有して実施できるか確認する

- 防災・減災対策を一緒に避難するであろう保護者にプレゼンの後、アドバイスを感想をもらって情報を追加し完成させる。
- 調査では大洲市の浸水想定域から地形の特徴や避難の方法を考えさせた。



展開1 日本の自然環境と災害を考える

シンキングツールの情報分析チャートを使い、日本の地形・気候の特徴をまとめさせる。それらの特徴から、どのような災害が起こりうるかを考えさせる。

冬課題①地理

| | | |
|--|--|--|
| <p>新潟県新潟市</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形 気候 年平均気温16℃ 降水量が多い 気候との違い 気候のイメージ | <p>宮城県仙台市</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形 山が多い 気候 年平均気温14℃ 降水量が多い 気候との違い 気候のイメージ | <p>東京都江東区</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形 低地と平地 気候 年平均気温15℃ 降水量が少ない 気候との違い 気候のイメージ |
|--|--|--|

日本の地形・気候の特徴(179ヶ所地域別)

- 地形・気候の特徴(179ヶ所地域別)
- 地形・気候の特徴(179ヶ所地域別)

日本の地形・気候の特徴から起こりうる災害は？(最終3つ)

- 地形・気候の特徴から起こりうる災害は？
- 地形・気候の特徴から起こりうる災害は？
- 地形・気候の特徴から起こりうる災害は？

・日本が「災害大国」と呼ばれる理由として、どのような地形・気候の特徴を有しているからと言えるか？

| 災害 | 地形の特徴 | 気候の特徴 |
|-------|---------------------|--------------------|
| 地震 | 〇山脈が多い → 活断層が多い | × |
| 火山 | 〇活断層が多い → 活断層が多い | × |
| 河川の氾濫 | 〇急峻な地形 → 急峻な地形 | 〇台風・梅雨前線 → 梅雨前線 |
| (台風) | × | 〇台風・梅雨前線 → 梅雨前線 |

展開2 自宅周辺で起こりうる災害を予想する

地形分類をカードにして生徒に配布、自宅周辺で起こりうる災害を予想させ、記入・提出させる。クラス全体に共有した後、風水害・火山災害・地震津波災害の実態と被害を説明、理解させる。

展開3 自分用のハザードマップを作る

洪水・津波・土砂災害の被害想定を用いて、自分用のハザードマップを作成させる。さらに、想定被害状況を理解した上で、適切な対策・避難タイミングを「マイ・タイムライン」にまとめさせる。生徒は家庭で避難対策についてのプレゼンを行い、保護者のアドバイスをもとに改善する。

各種ハザードマップから考える

| | 洪水 | 津波 | 土砂災害 |
|---------|----|----|------|
| ハザードマップ | | | |
| 避難経路 | | | |
| 避難場所 | | | |
| 避難方法 | | | |

まとめ

自宅周辺の地形を確認してみると、起こりうる災害や被害の大きさなどを実感できます。防災意識の薄かった生徒たちも自分ごととして捉え、主体的に取り組んでいました。

詳細を Web ページで見る



タブレットのホーム画面をカスタマイズしよう

単元

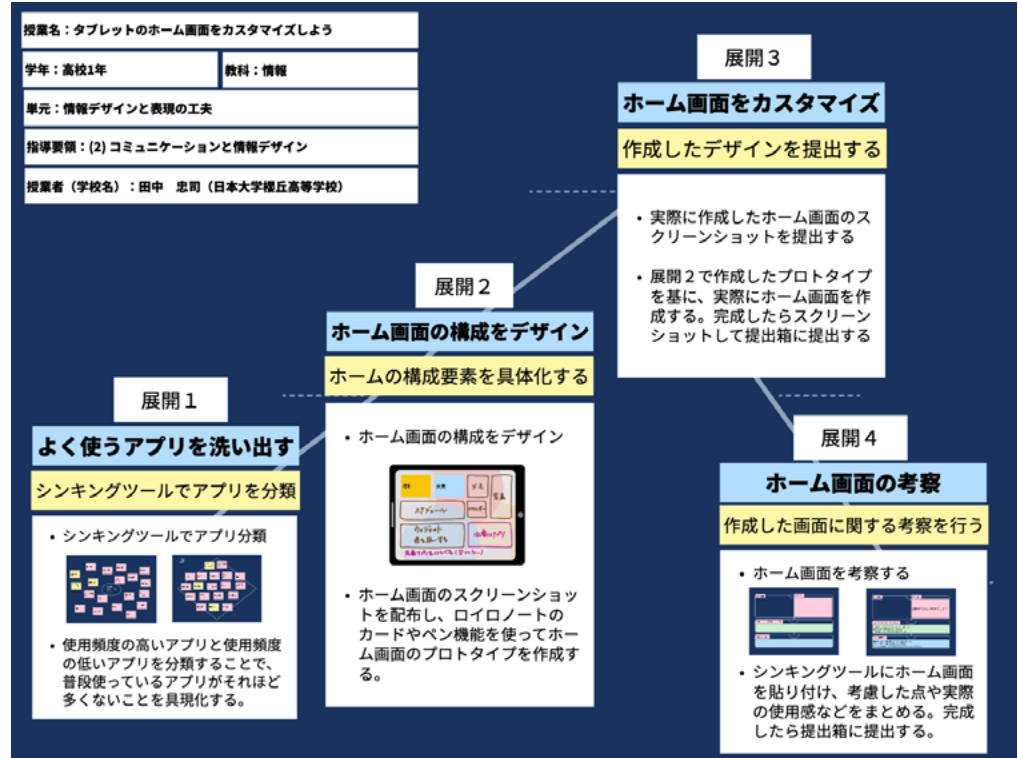
情報デザインと表現の工夫

指導要領

(2) コミュニケーションと情報デザイン

授業者

日本大学櫻丘高等学校
田中 忠司 先生



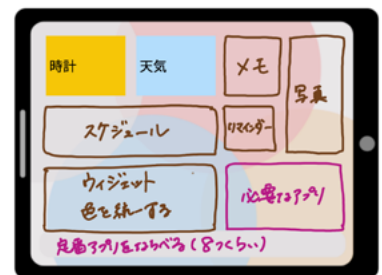
展開1 よく使うアプリを洗い出す

シンキングツールのウェビングを使って、生徒に普段使用しているアプリを書き出させる。その後、ダイヤモンドランキングに切り替え、使用頻度が高い順に並び替える。書き出すことで、普段使っているアプリがそれほど多くないことを認識させる。



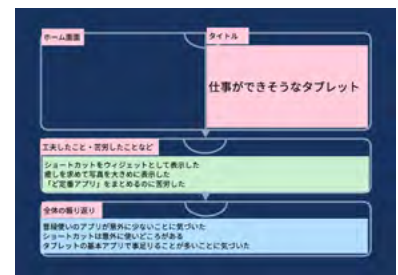
展開2 ホーム画面の構成を考える

展開1で確認した利用頻度をもとに、ホーム画面の構成を考えさせる。ホーム画面のスクリーンショットを配布し、カードやペン機能を使って、ホーム画面を試作する。



展開3 作成した画面に関する考察を行う

試作したホーム画面を実際にタブレットで再現する。ワークシートにホーム画面のスクリーンショットを貼り付け、考慮した点や実際の使用感などを添えて、提出箱に提出させる。(ワークシートは、シンキングツールの情報分析チャートを使用。)



まとめ

「タブレットのホーム画面にあるアプリのうち、実際に使っているものは意外に限られるな」と思い、授業を組み立てました。ツールを整理した後、ホーム画面を試作し、実際に使用しながら改善を重ねるというプロセスは、情報Iの問題解決分野にもつながります。

詳細を Web ページで見る



SDGs きみは世界を救えるか？ 問題解決の考え方

単元

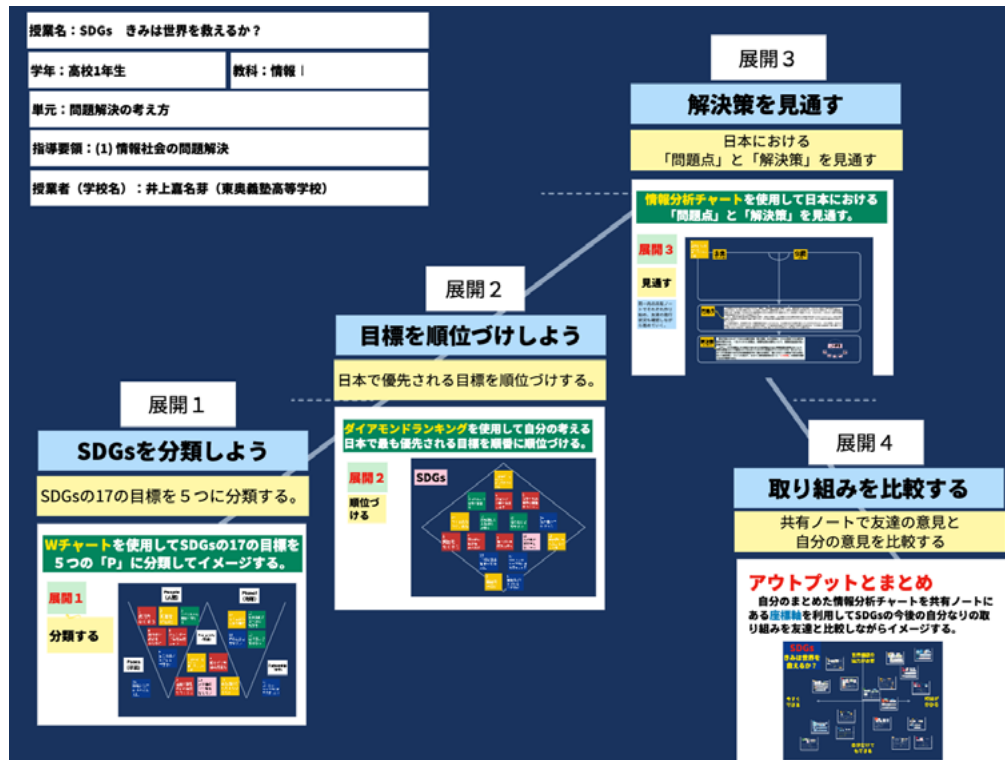
問題解決の考え方

指導要領

(1) 情報社会の問題解決

授業者

東奥義塾高等学校
井上 嘉名芽 先生



展開1 SDGsを分類する

シンキングツールのWチャートを使って、SDGsの17の目標を「5つのP」に分類し、それぞれの目標を生徒が理解・イメージできるようにする。

※ 5つのP: Peace (平和)、People (人間)、Prosperity (繁栄)、Planet (地球)、Partnership (協働)



展開2 目標の優先順位を考える

生徒は、シンキングツールのダイヤモンドランキングを使って、各目標を日本での優先順位に並び替える。



展開3 解決策を見通す

シンキングツールの情報分析チャートを使って、日本における「問題点」と「解決策」を見通し、まとめる。共有ノートでクラス・グループの考えを共有し、自分と他者のアイデアを比較して、考えを深める。



まとめ

世界を救うために何ができるのか、SDGsに正面から向き合い、問題の解決策を考える活動です。これまで考えも及ばなかったことに直面している今、真摯な態度で向き合うことで「より良い未来」を考えるための手立てになれば幸いです。

詳細を Web ページで見る



結婚について考えよう

単元

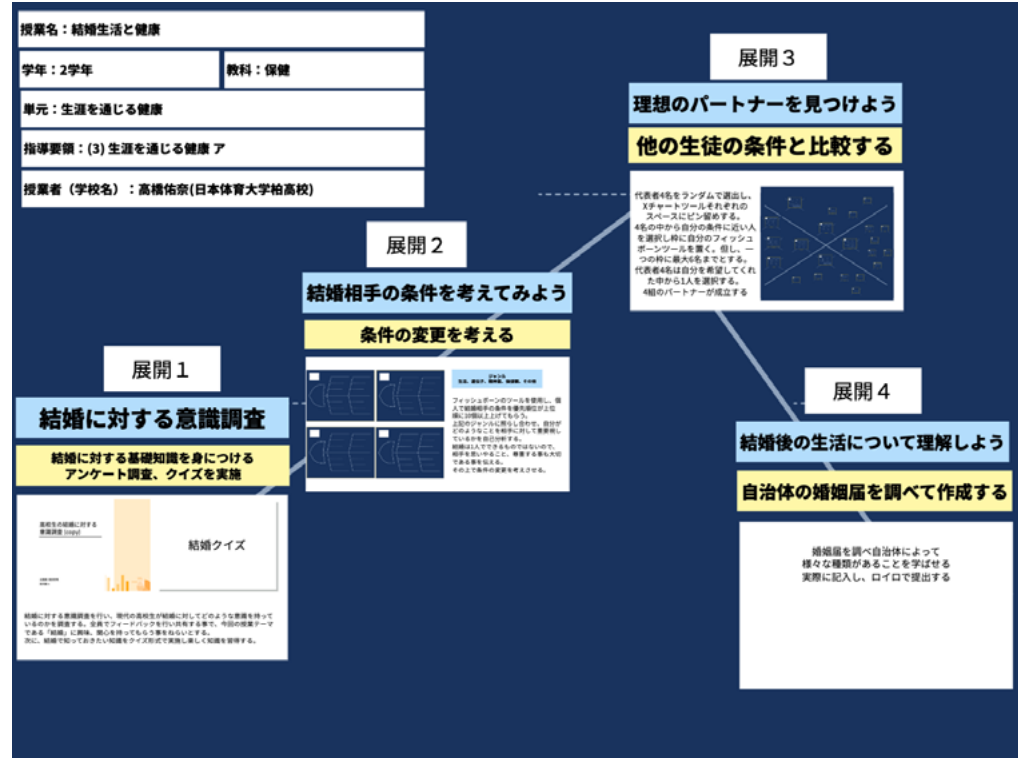
生涯を通じる健康

指導要領

(3) 生涯を通じる健康 ア

授業者

日本体育大学柏高等学校
高橋 佑奈 先生



展開1 結婚に対する意識調査を行う

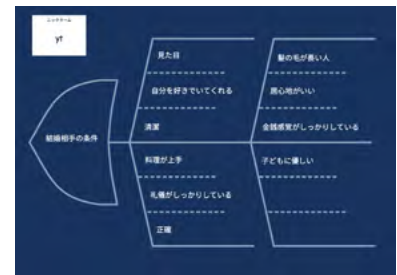
アンケートカードを使い、結婚に対してどのような意識を持っているか調査する。クラス全体で回答結果を共有することで、「結婚」というトピックについて考えさせる。その後、テストカードを使い、結婚の豆知識に関するクイズを実施する。



2022年4月から結婚できる年齢が変更となりました。男女共に何歳からか答えなさい。

展開2 結婚相手の条件を考える

生徒は、自分が結婚する場合に、相手に求める条件を考え、10以上書き出す。シンキングツールのフィッシュボーン図を使用し、それらを優先順に並べる。さまざまな観点（ライフスタイル・性格・価値観など）から、自分がどのようなことを結婚相手に求めるのかを分析する。



展開3 結婚相手の条件を共有する

4人グループを作り、結婚相手の条件をXチャートで共有させる。他の生徒と自分とを比較し、自分の条件を再考する。（共有ノートを使用して、共有する。）最後に、婚姻届について調べ、さまざまな種類があること、記入方法を学ぶ。



まとめ

自己分析を行い、他者との比較をすることで、同年代の結婚に対する意識・関心を知ることができます。シンキングツールを使用することで、「結婚が一人では成り立たない」ということを楽しみながら理解できます。

詳細を Web ページで見る



ロイロ認定校インタビュー

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

「未来社会に挑む学校」として、子どもと大人のチャレンジを応援する学校です。宝仙学園の建学の精神である「人間教育」に向き合い、師弟同行の精神を大切に、徹底した体験教育を展開しています。近年は、「学校のHUB化」を掲げ、学校のリソースをフル活用した「実社会とつながる学び」を創造しています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

好奇心を原動力に、子ども自ら課題や学習方法を選択・決定し、仲間と協働しながら歩む、「学習者中心の学び」を実現していきたいです。こうした学びにおいて、ICTは欠かさない武器であり、本校は2022年度に学習環境・校務でフルクラウド・マルチOSの完全BYODをスタートしました。重要な学習基盤の一つである情報活用能力をさらに伸ばしていきたいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

年に2回、全国のロイロ認定ティーチャーを研修講師として他校から派遣いただけることが大変ありがたいです。また、こうして本校を取り上げていただいたり、本校の教員を研修講師としてお声掛けくださることも、教員のモチベーションアップにつながっています。認定校のメリットはたくさんあれど、デメリットは一つもありません。



宝仙学園小学校
吉金 佳能 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

本校では、以下の4つの点を重視して日々の教育に取り組んでいます。

- ① カトリック校として、宗教的価値観に基づいた心の教育
- ② ICTを活用した、児童の豊かな表現力を高める教育
- ③ 日常的に英語を話すことができ、海外でも通用する英語教育
- ④ 幼小中一貫校ならではの異学年交流

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

ICT活用の幅を広げ、総合的な学力や、児童の表現力の向上を目指しています。また、ICTを校内外、さらに世界中の人々とつながるツールとして活用していきたいです。アナログも併用しながら、児童にとって効果的な手段として、ICTを活用した授業を実現したいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

ICT活用に意欲的な先生方のモチベーションアップにつながっていることです。また、全国のロイロ認定ティーチャーを講師にお招きできたことも大きかったです。さらに、認定されたことで、他の地域に対して、学校名を周知することができ、他校・他社との情報共有・情報交換ができたことも良かったです。



郡山ザベリオ学園小学校
佐々木 瞭 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

現在は、「表現力」を育てることに力を入れています。授業の中で、子どもたちが表現する場面を多く取り入れ、自分の意思や提案を相手に伝える力を育てています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

「表現」の手段として、ICTを活用して自分の提案を分かりやすくまとめたり、互いに意見を交流してより良いものにしていくことが大切だと考えています。子どもたちがICTを効果的に使い、主体的・協働的に学べるようにしていきたいです。

Q3 認定されて良かったことは？

全国のロイロ認定ティーチャーの先生方をお招きした研修を実施できるようになり、校内の先生方の授業改善につながりました。



雲雀丘学園小学校
隅田 心吾 先生



ノートルダム学院小学校
梅下 博道 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

正解やゴールの見えない未来に向けて必要なのは、AIや科学技術だけでは担えない、人間としての土台「人を思いやる心」「思考力」というエンジンです。
私たちノートルダム学院小学校は「思いやりの心」を土台に、教科と体験を連動させ、「学び」「体験」「英語」を3本柱として、子どもたちの思考力を育てています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

「PLACE OF DISCOVERY 一人と関わり新たな視点で一步先を行く学校」として、ICTの活用はもちろん、子どもたちが自分で判断し、豊かな自己表現を身につけ、未来に必要な力を育む教育を実現していきたいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

関西の小学校として初の認定を受けたことで、長年ロイロノートを活用してきた学校として、これまでの実践に自信を持つことができました。
また、ロイロ認定校の盾をいただけたことで、教員一同のモチベーションが上がり、より一丸となって教育活動に取り組むことができるようになりました。

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

ICT教育はもちろんのこと、実践的な英語教育にも注力しています。
さらに、生徒たちが自らの興味や関心を深めるための論文活動や、プロジェクトベースの学習を推進し、総合的な探究学習を強化しています。教育活動を通じて、必要とされるスキルや知識を身につけ、創造的な学びを深める力を育む教育を目指しています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

校訓に掲げる「自律」「創造」「対話」が深まるよう、積極的に取り組んでいます。
今後はさらに、ICTの可能性を最大限に活かしながら、探究的な課題を共有し、生徒が互いに発展的に考えられる環境を目指します。学内だけでなく、学校外とのつながりを強化することで、創造的で対話的な学習活動を推進したいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

ロイロノートの活用により、学年団の情報伝達や、教科間での教材のやりとりがスムーズになりました。教員間の連携が強化され、教育の質向上を実感しています。
全国のロイロ認定ティーチャーを招いて研修会を行えるようになったことも良かったです。また、LEGなどを通じて、全国の先生方の実践的な事例を見聞きする機会も増えました。



済美平成中等教育学校
門屋 孝明 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

人間力の育成・探究力の育成・確かな学力の定着を目標に、日々の学習活動に取り組んでいます。ICTの導入にも早くから取り組んでおり、ロイロノートなどのICTを活用した授業改善にも力を入れています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

ICTを活用して、より効果的で創造的な学びを提供することを目指しています。
問題解決能力を養うための環境を整え、生徒が自ら考え、自らの興味や能力を伸ばすことで、未来を切り拓くリーダーを育てる教育を実現していきたいです。

Q3 認定されて良かったことは？

生徒が学校紹介を行う際には、ロイロ認定校であることを取り挙げることも多く、生徒自身も誇りを持っているようです。
学校としても、ロイロ認定校に認定されたことで、より評価していただけるようになりました。また、教員のICT活用促進にも効果があると感じています。



多治見西高等学校附属中学校
小木曾 賢吾 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

日本大学の「自主創造」の精神のもと、「基礎学力の向上」「自主性の確立」「連帯と協調性の育成」「基本的生活習慣の育成」という教育目標を掲げています。「グローバル教育×ダイバーシティ」「アクティブラーニング×ICT教育」「体験型高大連携教育×サイエンス・リテラシー」など、多数の教育活動を展開しています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

本校が掲げる「具体的教育目標」を達成するとともに、21世紀の予測困難な社会を生き抜いていける資質・能力を持った主体的な人材を育成できるような教育活動を展開していきたいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

近隣の学校においてもロイロノート・スクールが導入されており、受験生の保護者に対する本校の認知度が向上したことがとても大きいです。また、ロイロ認定ティーチャーに研修会の講師依頼ができるようになったことで、先生方の授業改善にもつなげることができました。



「
日本大学櫻丘高等学校
田中 忠司 先生
」

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

本校には「徳育」という独自の教科があります。内容は、礼儀作法や食事のマナー、手紙やメールの書き方など、社会生活をするうえで大切にしたい「心のありかた」を学びます。ICT環境が充実するなかでも、校訓である「至誠〜まごころをつくす〜」を忘れず、心豊かな生徒を育成することに努めています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

ICT教育を通じ、自己・他者の理解、自己管理能力、自己調整力を身につけていきたいと考えています。

そのため、端末に多くの制限を設けず、生徒一人ひとりが主体性を持って活用し、考えながら使うことにより学びを深めてほしいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

先生方のICTに対する意識変化があったことが挙げられます。

認定校として恥ずかしくない授業展開をしようと、教材研究をしています。

また、多くの認定校の先生方と交流する機会が増え、授業力の底上げにつながっています。



「
加藤学園高等学校
小山 俊彦 先生
」

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

“noblesse oblige”を理想の教育像とし、誇り高く高潔な人間性を陶冶することに教育の基本を置いています。変転して止まない現代社会において、不動の一点を見つめて生きることができる、「プリンシプルを持った若者」を育てる教育を目指します。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

生徒が主役となる教育を実現するため、授業でのICT活用をさらに推進したいです。タブレット端末は学校生活に欠かせない存在であり、ロイロノートなどの学習支援ツールも生徒の学びを豊かにしています。ICTの使用があたりまえになるほどの普及を目指して、学びの環境を整えていきます。

Q3 認定されて良かったことは？

公開授業でLoiLo社の全面的なサポートが受けられることは、大きなメリットだと感じています。また、近隣のロイロノート導入自治体から「ロイロノートを積極的に活用している学校」として認知されやすくなったことも、嬉しく思っています。



「
東京都市大学等々力中学校・
高等学校
鹿又 裕毅 先生
」



東奥義塾中学校・高等学校
井上 嘉名芽 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

生徒の個性と能力を引き出すため、ロイロノートを用いた自由進度学習を推進しています。クリティカルシンキングやプロジェクトベース学習を通じて、生徒の主体的な学びを支援しています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

個別最適化学習を強化し、リアルタイムの学習支援を提供したいと考えています。また、AIを授業で効果的に活用し、没入型学習体験で生徒のモチベーションと理解を深めたいと考えています。

Q3 認定されて良かったことは？

教育の質向上、教育技術の交流拡大、地域社会や保護者からの信頼増加につながりました。また、ロイロ認定校となることで、学校のブランディングにも寄与しています。

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

「エージェンシーを発揮して、変革を起こす力を持った生徒の育成ーメタ認知力を育成する指導と評価の探究ー」という研究主題のもと、実践を行っています。学びの中にメタ認知力を発揮できる場面を設定するとともに、自分の思考・行動を自覚的に修正させることで、エージェンシーとメタ認知力を育成したいと考えています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

ICTの魅力は、「学びたいこと・知りたいことに、容易にアクセスできる」「思考をさまざまな形で表現できる」「学びを多くの人と共有できる」の3点だと考えています。教員は、目的に応じてICTの魅力柔軟に活かしながら、授業をデザインすることが大切だと考えています。また、生徒には、ICTの魅力を味わいながら、学びを深めるツールとして活用させていきたいです。

Q3 認定されて良かったことは？

ロイロ認定校として認めていただいたことで、多くの方々から注目されていることを実感しています。注目されることに責任や重みを感じるとともに、「生徒の学びを深めるために、より良い活用の仕方を研究しよう」というモチベーションにもなっています。



愛媛大学教育学部附属中学校
兵頭 宣彦 先生

Q1 学校として、どのような教育に力を入れていますか？

学校でしかできない学びを追求して教育活動を継続中です。生徒の学びがアートのような形になることを目指し、授業デザインをしています。地域と密に連携し、アントレプレナーシップや表現教育、農福連携教育などの探究活動も実施しています。近年は、資質能力の効果測定をするために支援ソフトを導入する取り組みも積極的に行っています。

Q2 今後、どのような教育を実現していきたいですか？

学校内だけでの学びにとどまらず、生徒の活動をより大きなステージに拡大したいと考えています。そのために積極的に外部連携を行いながら、教職員のビジョンや学び方が、よりオープンマインドになる挑戦を考えております。

Q3 認定されて良かったことは？

認定を契機に全国から注目していただき、他校の先生方との交流をすることで、教職員の視野を広げることができました。また、ロイロ認定校としてイベントや研修会を行うことで、質の高い研究授業会を実施することができ、地域の教育機関にも良い影響を与えることができました。



日本体育大学柏高等学校
熊井 允人 先生

全国の先生が作った授業案を使ってみよう！

全国の先生が作ったさまざまな授業案データを使うことができます。

ロイロノート・スクール授業案の特長

ロイロノート・スクールの授業案は、自分の授業で実践できるたくさんの工夫があります。

解説動画

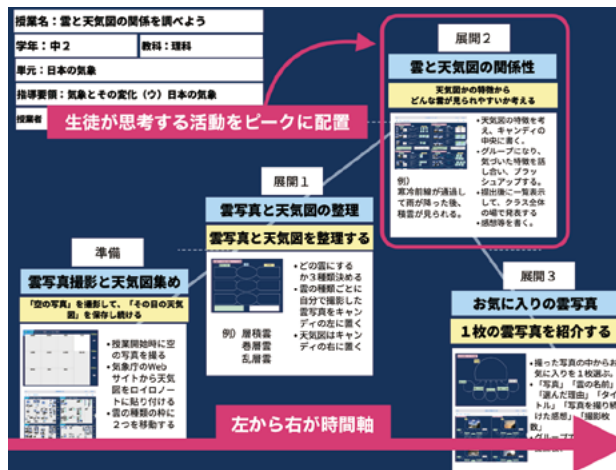
授業案を作成した先生による解説動画がついています。授業実践のポイントがわかります。

授業の展開が一目でわかる

授業の展開がプロット図(右図)でまとめられています。生徒の思考を育成するポイントや授業の流れが一目でわかります。

ワークシートなどがダウンロードできる

授業案ページではロイロノート・スクールのノートデータがダウンロードできるようになっています。ワークシートや資料を再編集して自分の授業で使えます。



授業案の検索

教科、単元、学年などをキーワードに授業案を検索できます。



検索 小5 算数

- 小5 算数 ひし形の面積の求め方を考えよう【授業案】
ニュージャーニー日本人学校 立石研一
- 小5 算数 六角形、七角形、八角形の内角の和 合同な図形【授業案】
品川区立戸越小学校 吉田知寛
- 小5 算数 四角形と三角形の面積【実践事例】
栃木市立栃木第四小学校

授業案データを自分の授業で使う

授業案ページに掲載されているワークシートなどのデータをダウンロードして、自分の授業で使えます。



授業案を作ってロイロ認定ティーチャーになろう！

授業案作成のサポート研修も実施しています

授業案作成の方法、授業案提出フォームは以下のマニュアルページで公開しています。授業案作成を体験できるオンライン研修も開催しています。ご参加ください。



授業案作成マニュアル



オンライン研修
「授業デザインを学ぼう」



ロイロ認定ティーチャーになろう！

生徒の思考力 / 判断力 / 表現力を育てる授業デザインができる先生を
ロイロ認定ティーチャーとして認定しています。

ロイロ認定 Teacher



認定ティーチャー特典

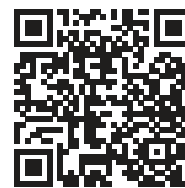
- ★ 認定ティーチャー専用オンライン研修に無償で参加できます。
- ★ 認定ティーチャー専用コミュニティで全国の先生と協働的に学べます。
- ★ 全国の自治体やオンラインイベントで講師として活躍できます。

認定方法

1 認定希望者フォームへの登録

- 認定希望者へのさまざまな支援プログラムをご用意しています。
- 認定にご興味をおもちの方は希望者フォームにご登録をお願いします。
- 授業案作成研修会の情報や、審査受付のお知らせなどをお届けします。

認定希望者フォーム <https://forms.gle/DuMF9wGCW1Veg7gE7>



2 授業案作成・提出

- 授業案の審査をもって、ロイロ認定ティーチャーに認定します。
- 授業案作成のためのオンライン研修会を開催しています。
オンライン研修会では授業案の作り方が学べ、実際にその場で授業案を作成いただけます。
- 認定ティーチャーから授業案作成のためのアドバイスが受けられます。
- オンライン研修への参加が難しい場合には、授業案作成マニュアルをご参照ください。

研修会・マニュアル <https://help.loilonote.app/--60b9e0def6664200225ff6ee>

審査・認定期間 **前期 8月1日から9月30日 / 後期 3月1日から4月30日**

ロイロ認定ティーチャーまとめページ

ロイロ認定ティーチャーの審査には、授業案の提出が必要です。
詳細は下記URL、あるいは右のQRからアクセスしてください。

<https://help.loilonote.app/--5fb73ce4c189ec002000d405>



まずは無料で使えます



とりあえず ロイロ キャンペーン 初年度完全無料

すべての学校で 初年度完全無料

- ★ ユーザー数無制限でご利用いただけます。
- ★ データ保存容量は無制限でご利用いただけます。
- ★ 自治体全校、初年度無料でご利用いただけます。



教員は永年無料

- ★ 教員は永年無料でご利用いただけます。
- ★ ユーザー数無制限でご利用いただけます。
- ★ 1クラス分の模擬授業用ダミー生徒アカウントもご利用いただけます。



教育委員会・教育センター・教職課程での ご利用は完全無料！

- ★ 教育委員会、教育センター、教職課程でのご利用は、学生も含めて完全無料です。
- ★ 委員会内でのお試し、教員向け研修、教職課程での授業実践などでご利用ください。

導入・お見積もりをご希望の方は下記フォーム、
あるいは右のQRよりお問い合わせください。

https://n.loilo.tv/ja/consulting_form



ロイロノート・スクール オンライン研修

定期
開催

開催日程はQRでチェック!

15:45 - 16:45

基本
操作

活用法

授業
づくり

こんな方にぴったり

- ✓ ロイロノート・スクールを授業で使ってみたい!
- ✓ 授業でのロイロノート・スクール活用法を学びたい!
- ✓ ICTを活用した授業づくりにチャレンジしたい!

詳細・お申し込み

右のQRからお申し込みください ▶

- 申込締切は開催前日12時です。
- 全ての講座は無料でご参加いただけます。
- 複数名同時のお申し込みも可能です。



最新情報

研修・イベント情報、新機能などをSNSで発信しています。
フォローして最新情報をチェックしてください!



@loilo



@loilojp



@LoiLoNoteSchool



お問い合わせ



先生向けサポート LINE

LINE からチャットでお問い合わせができます。

【LINE 友だち追加方法】

【@loilo】でID検索、または右側のQRを読み取り、
「友だち追加」をしてください。



✉ loilo@loilo.tv

受付時間 平日 9:00 ~ 18:00

土日・祝祭日は翌営業日以降の対応となりますので、ご了承ください。

サポートページ

ロイロノート・スクールのよくある質問・
研修情報などをご紹介します。

<https://help.loilonote.app/>

困ったことがありましたら、
まずこちらから検索ください。



導入事例・活用法などはWebへ

<https://n.loilo.tv>



開発・販売元：
株式会社 **LoiLo**

〒231-0003
神奈川県横浜市中区北仲通 4-40
商工中金横浜ビル 5階

Mail: loilo@loilo.tv



25000122